

**2019年度
海と日本ニュースプロジェクト
実施報告書**

**2020年3月31日
海と日本ニュースプロジェクト実行委員会**

1 事業概要

1_(1)事業サマリー

ソーシャル・イノベーション・ニュース編集部を設置して、独自に取材したニュース、全国各地で行われる活動を地方テレビ局と連携してWEBニュース用の動画（テレビ用取材動画をWEBファーストな動画に加工）を編集し、記事を制作してソーシャル・イノベーション・ニュース内の特集画面に掲載。

さらに本ニュースサイトの記事を既存のニュースサイト（Yahoo!ニュース）と連携し拡散させていく。

- ・「ソーシャル・イノベーション・ニュース」への掲載記事数 42件 PV 100,554
- ・「Yahoo!ニュース」への掲載記事数 41件 PV 917,516
- ・合計PV数 1018070

(2020年3月31日時点)

1_(2)実施主体

海と日本ニュースプロジェクト実行委員会

1_(3)実施期間

2019年4月～2020年3月

2 ニュースサイト運用

ソーシャル・イノベーション・ニュース – 海洋危機特集

http://social-innovation-news.jp/?page_id=211

🏠
ソーシャル・イノベーション・ニュースとは
海洋危機特集



SOCIAL INNOVATION NEWS

ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

生態系



しかし、そんな琵琶湖のアユの漁獲量が減っている

2019.03.28

このサイトについて

Social Innovation News

環境問題を中心に、日本が抱えるさまざまな社会課題に焦点をあてます。よりよい未来を作るために、私たちは何をすればいいのか。課題解決の方法をさまざまな観点から探る、新しいカタチのニュースサイトです。

カテゴリ

復興	2
海ゴミ	18
海開き	2
生態系	111

特集

日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」である **ソーシャル・イノベーション・ニュース** の中に、**海洋危機特集コーナー** を設けた。これまでと同様に海と日本プロジェクトの一環で制作された地方テレビ局のニュース動画を本サイト用に再編集して新たにニュース記事を作成し掲載するのに加えて、独自動画取材チームを設置し、イベントや会見の様態を迅速に伝えたり、さまざまな角度から見た海洋危機に関しての特集記事を制作、掲載している。

	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
1	2019.5.15	全国	テクノロジー	東京大学と日本財団が連携 海洋ごみ対策について科学的に挑む一大プロジェクト
2	2019.5.30	全国	海ごみ	原田環境相も江の島でごみ拾い！スタートした全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」
3	2019.6.8	全国	コスプレ	世界中のコスプレイヤーが海洋ごみ問題を発信！東京タワーでごみ拾い
4	2019.6.18	全国	海ごみ	「海ごみゼロ国際シンポジウム」開催。G20で機運が高まる海洋ごみ対策を世界へ発信
5	2019.7.13	全国	海の体験 機会づくり	「海に行きたい・行きたくない」は子どもの頃の体験が影響
6	2019.7.24	全国	安全・そなえ	子どもの頃に海へ行くと将来結婚がしやすくなる！？親子が学んだ海とそなえ
7	2019.8.5	全国	安全・そなえ	危険生物に離岸流。夏本番に向けて知っておくべき“海のそなえ”
8	2019.8.8	全国	コスプレ	声優・古谷徹も応援！コスプレイヤー協力のもと、新たな海洋ごみ対策が始まる
9	2019.8.20	全国	テクノロジー	山の中で！？世界初！水中ドローンとVRを使ったワクワク海体験
10	2019.9.17	全国	フードロス	海洋ごみを作らない・出さない！豊洲市場で日本初のエビフェス！
11	2019.9.21	全国	海ごみ	迫る“スポGOMI甲子園 全国大会”！初の試みを生みの親が語る
12	2019.9.27	全国	海ごみ	自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【前編】
13	2019.9.27	全国	海ごみ	自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【後編】
14	2019.10.19	全国	テクノロジー	スマートフォンでブリがさばける！？食から海を学ぶイベント
15	2019.10.23	全国	テクノロジー	国際会議で称賛！海の事故を予防するA Iを使った世界初の“みまもりシステム”【前編】

	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
16	2019.10.23	全国	テクノロジー	国際会議で称賛！海の事故を予防するA Iを使った世界初の“みまもりシステム”【後編】
17	2019.11.13	全国	海の体験機会づくり	子ども目覚める海の仕事体験～約100人の子どもが体験した“海のお仕事”の集大成！海のお仕事図鑑～
18	2019.11.27	全国	海ごみ	ジブリで学んだ糸曾監督の流儀～初の劇場アニメ公開！糸曾賢志監督が“恩師・宮崎駿監督の教え”と“自然観”を語る～
19	2019.12.1	全国	テクノロジー	シーパラの水槽に疑似ダイブ～横浜・八景島シーパラダイスに期間限定の「水中ドローン×VR」の新アトラクションが登場！～
20	2020.01.13	徳島県	生態系	海辺の生態系を壊す黄色い脅威～徳島県小松海岸に根付いた厄介者“ナルトサワギク”～
21	2020.1.13	石川県	海ごみ	麦ストローが広げる脱プラの輪～1人の女性の海への想いから石川県小松市で生まれた大麦ストロー～
22	2020.1.13	岩手県	生態系	海の保育園で育つホシガレイ～岩手県で減少する幻の高級魚を子ども達が放流～
23	2020.1.13	京都府	海ごみ	こども探偵団が海ごみを調査～京都で子ども達が海洋ごみを調査！80袋のほとんどが生活ごみ～
24	2020.1.13	山梨県	海ごみ	マイクロプラ汚染 山中でも進行～海なし県・山梨発 大学教授が取り組む海洋汚染への取り組み～
25	2020.1.20	大分県	伝統文化	ジョーヤラ担う大分の中学生～古き良き海の祭りを継承し続ける大分県佐伯市の子ども達～
26	2020.1.20	福島県	復興	大震災で被災の漁港が全面復旧～福島県富岡漁港・釣り船業男性の新たな出発～
27	2020.2.16	全国	テクノロジー	院内学級で遠隔“海体験”～横浜南養護学校の子ども達が「水中ドローン×VR」の技術に大興奮！～
28	2020.2.22	全国	伝統文化	灯台が進むべき未来を提案灯台が進むべき未来を提案～地域の観光資源からマンガ・アニメ化まで「全国灯台文化価値創造フォーラム」～
29	2020.2.22	石川県	海ごみ	海を守る心を育てる里海科～アクティブラーニングで海洋教育を行う石川県の小木小学校～
30	2020.2.22	福岡県	生態系	密着！最新水族館のお仕事～地元・福岡県民も知らない大切な取り組みとは？～

	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
31	2020.2.22	宮崎県	生態系	サンゴの世界的権威が新発見～宮崎県・日南海岸の海中に広がる世界でたった一つの豊かな森～サンゴの世界的権威が新発見
32	2020.2.22	熊本県	海ごみ	官民一体で漂流ごみ回収大作戦～熊本県天草市牛深町～
33	2020.2.22	岩手県	海ごみ	高校生が海ごみ問題を発信～岩手県立宮古水産高校が初の海洋ごみ展示で啓蒙活動～
34	2020.2.22	山口県	伝統文化	見直される陶器のタコツボ～山口県で伝統を守り、土に帰るタコツボをつくり続けている男性～
35	2020.2.22	兵庫県	海ごみ	導き出した海ごみ対策の提言～海ごみ対策に取り組む神戸商業が考えたこと～導き出した海ごみ対策の提言
36	2020.2.22	全国	海ごみ	ポイ捨て 別の要因が判明～“モラルの問題”だけではなかった陸から川へとごみが流れ出るメカニズム～
37	2020.2.25	新潟県	生態系	障害のある人へ海体験を提供～新潟県鯨波の旅館経営者が提案する誰もが楽しめるビーチ～
38	2020.2.25	山形県	生態系	値があつという間に決まるセリ～山形県鼠ヶ関漁港の一風変わった「札読み」～
39	2020.2.25	北海道	テクノロジー	海の生態系調査が劇的進化！？～北海道・沿岸調査用ドローンが新登場～
40	2020.2.28	神奈川県	生態系	世界基準の一流ビーチ由比ガ浜～神奈川県・地域住民が整備した海離れの青い救世主！～
41	2020.2.28	広島県	生態系	邪魔な木を魚の楽園に再利用～『イカの宝庫』広島県・田島発の産卵床づくり～
42	2020.2.28	鹿児島県	生態系	絶品グルメは海のやっかい者～鹿児島・“桜島の火山灰”で地域の特産品に変える～

No.	1	エリア	全国	投稿日	2019.5.15
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=933		



東京大学と日本財団が連携 海洋ごみ対策について科学的に挑む一大プロジェクト

2019年5月14日、東京大学と日本財団が、海洋ごみ対策について連携する研究プロジェクトを発表した。

日本財団は、海洋ごみについて、産官学民が協力し合う日本初の取り組み「CHANGE FOR THE BLUE（チェンジ・フォー・ザ・ブルー）」を推進している。この研究プロジェクトは、その取り組みの一環で、国際的な問題となっている海洋プラスチックごみ問題を解決するために、科学的な研究と対策を充実させていくという。

中でも、柱の1つとなっているのが、「東京大学のご理解を頂きまして、今話題になっているマイクロプラスチックの問題について研究して頂く」と、日本財団の笹川陽平会長が語ったように、マイクロプラスチックの調査。例えば、科学的なデータが少ないという1mm以下の海洋マイクロプラスチックの実態や、培養腸管モデルといったバイオ細胞などを用いて、マイクロプラスチックが人体にどんな影響を与えるかなどを調査するという。

そして、2021年に、こういった研究・対策の成果から海洋ごみについて新たな科学的知見を発表できることを目指している。そんなこのプロジェクトの総事業費は、なんと3億5000万円を超える。

東京大学の五神真総長は、この研究プロジェクトについて「海は人類存立の基盤と言っても過言ではありません。我々はこのかけがえない豊かで美しい海を将来の世代に繋いでいく必要があります。そのため、産学官民で力を合わせながら、世界に先んじて成果を発信していきたいと考えています」と意気込みを語った。

No.	2	エリア	全国	投稿日	2019.5.30
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=937		



原田環境相も江の島でゴミ拾い！スタートした全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」

ごみゼロの日である2019年5月30日、江の島のビーチでゴミ拾いが行われた。これは、海洋ごみ対策を目的とした全国一斉清掃キャンペーン。

この取り組みは、環境省と日本財団が企画したもので、ごみゼロの日から世界海洋デーの6月8日辺りまでを海ごみゼロウィークと定め、日本全体が連動して、海洋ごみ削減のためのアクションを一齐に行うというもの。スタートとなったこの日は、一般の参加者の他、原田義昭環境相や協力企業、ふじさわ観光親善大使のタレントつるの剛士さんなども清掃活動を実施した。つるのさんは「ごみというのは、川を伝って海にやってきます。都内の人達が捨ててしまったり、上流部にいる人達がごみを捨ててしまうと全て海に返ってくる」と話した。

世界的な問題となっている海洋ごみ。

その海洋ごみの8割ほどは、街から出ているという。そして、海洋ごみで大部分を占めるプラスチックは、年間でなんと800万トン以上も流出しているという試算もある。そこで、海洋ごみ問題を知ってもらうため、また、流出を少しでも防ぐために、この全国一斉清掃キャンペーンを実施したのだ。

この日は、420人以上が江の島の海岸を清掃。参加者は、「街のごみがこういう海岸に流れてきてしまっているのかなと思いました」、「思った以上にゴミが出ているんだなというのを実際に見ると感じます」と清掃活動を通して、海洋ごみ問題の深刻さを感じたよう。日本財団の尾形武寿理事長は「人間がつくったごみならば、人間が責任を持って処理しなくてはなりません」と話し、また、原田義昭環境相は「江の島での清掃活動をきっかけに、海洋プラスチック問題や日々においてプラスチックとの賢い付き合い方を考えてほしい」と呼びかけた。

海ごみゼロウィークでは、期間中、全国およそ1,300箇所では43万人以上が清掃活動を行う予定となっている。

No.	3	エリア	全国	投稿日	2019.6.8
カテゴリー	コスプレ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=943		



世界中のコスプレイヤーが海洋ごみ問題を発信！東京タワーでごみ拾い

世界海洋デーの6月8日に行われたのが、「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦！ in 東京タワー」というイベント。

今、世界的な問題となっている海洋ごみ。その約8割は街から出ているという。そこで、アニメ・マンガ・ゲームのファンに対して、コスプレを通じて海洋ごみ問題の啓発と具体的な行動を促すべく立ち上がった「コスプレ海ごみゼロ実行委員会」と、海洋ごみ対策について、産官学民が協力し合う日本初の取り組み「CHANGE FOR THE BLUE（チェンジ・フォー・ザ・ブルー）」を推進する日本財団が連携し、海洋ごみ問題について知ってもらう、そして、取り組みの輪を広げていくために、このイベントを開催した。日本財団の笹川陽平会長も、人気マンガ「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公・ルフィのコスプレ姿で参加し、「世界の海をキレイにして特に日本からごみをゼロにしよう」と呼びかけた。そして、参加者は東京タワー周辺でごみ拾いを行いながら、コスプレ撮影を楽しんだ。

そんなこのイベントには、日本のコスプレイヤーだけでなく、イタリア、メキシコ、台湾など世界12カ国・地域から15人の有名コスプレイヤーも参加。人気ゲーム「スプラトゥーン2」のキャラクターのコスプレ姿で参加したメキシコ代表のTWIIN cosplayさんは、「こういうイベントがこの地球についての学びを深めてくれるから、とても大事だと思います」と、イベントの意義について語った。また、人気マンガ「NARUTO-ナルト-」のキャラクター・千手扉間のコスプレ姿で参加したフィンランド代表のSyncさんは「日本は島国で、四方を海に囲まれています。だから海に対して出来ることはたくさんあるし、世界への影響も大きいと思いますよ」と、日本が海洋ごみ対策に取り組むことの重要性を語った。

430人が参加し、30リットルのごみ袋90個分のごみを回収したこのイベント。「自販機の下に置いてあるごみとかを気づいたら入れようとか、自分で出来る小さいことをやっつけていこうと思いました」と、コスプレイヤーのみるおさんが語ったように、イベントを通じて、多くの人が海洋ごみの問題について理解を深めた1日となった。

No.	4	エリア	全国	投稿日	2019.6.18
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=947		



「海ごみゼロ国際シンポジウム」開催。G20で機運が高まる海洋ごみ対策を世界へ発信

日本が議長国となり、6月15日、16日に開催された20カ国・地域（G20）エネルギー・環境相会合。この会合では、海洋プラスチックごみ問題が主要な議題のひとつになり、海洋プラスチックごみ対策について国際的な枠組みが策定された。

そんな海洋ごみ対策が今まさに注目されている中、6月17日に行われたのが、海ごみゼロ国際シンポジウム。このシンポジウムは、海洋ごみ問題の解決に向けた日本の取り組みを国内外に発信する目的として開催。環境省からはG20環境相会合での成果の発表が行われ、原田義昭環境相は「（プラスチック資源循環戦略に基づき）世界トップレベルの目標達成を目指す」と語った。また、環境省の高橋康夫 地球環境審議官は「今月末（6月28日、29日）に大阪で開催されるG20サミットでも、海洋プラスチックごみ問題について首脳レベルで議論が行われる予定」と語った。さらに、シンポジウムには国内外の幅広い関係者も参加。経済協力開発機構

（OECD）のロドルフォ・レーシー環境局長は「プラスチックごみは、このままいくと今の5倍に増えるでしょう。私達はこの問題に今すぐ取り組む必要があります。OECDは今年、マイクロプラスチック問題に注力していきます」と発表し、また、ワシントン大学のエレヌ・ファウストマン教授は「マイクロプラスチックはビールや塩のほか、様々な食品からも見つかっています」と語るなど、海洋ごみにおける最先端の事例とともに、世界での取り組みも紹介された。

そして、海洋ごみに対する日本の代表的な取り組みとして紹介されたのが、日本財団が推進する日本初となる海洋ごみ対策プロジェクト「Change for the Blue」。このプロジェクトの一環で、5月30日の「ごみゼロの日」から「世界海洋デー」の6月8日辺りまでを海ごみゼロウィークと定め、日本全国で一斉清掃を行ったキャンペーン「海ごみゼロウィーク」は、なんと約1,500カ所で開催、およそ50万人が参加したと発表された。

さらに、「海ごみゼロアワード」も発表。これは、海洋ごみ対策に関して、優れた取り組みを全国から募集・選定し、表彰するもの。このプロジェクトには254件もの応募があり、最優秀賞を受賞した「荒川クリーンエイド・フォーラム」を含む8団体が表彰された。秋元司 環境副大臣は「こういった取り組みが海ごみゼロに向けた大きな枠組みになっていくと思います」と語った。

世界が直面する海洋ごみ問題。日本から取り組みの輪が広がりつつある。

No.	5	エリア	全国	投稿日	2019.7.13
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=951		



「海に行きたい・行きたくない」は子どもの頃の体験が影響

7月12日、海の日を前に、日本財団は「海と日本人に関する意識調査」を発表。この調査は、日本人が海に対して持っている意識や行動の実態を明らかにすることを目的としたもので、15～69歳の全国約1万人を対象に調査を実施した。

調査の結果、7割を超える人が「海に行きたい」と回答。しかし、その一方で、およそ3割が「この1年間で海に行っていない」とも回答し、特に10代は4割が「この1年間で海に行ったのが0日」という若い世代を中心に海離れが進んでいる結果が明らかとなった。

このような海に対する意識と行動について、日本財団の海野光行 常務理事は「海に行きたくないという気持ちも将来の海への関わり方も、全て子どもの頃の原体験が影響している」と調査結果から語った。実際に「海に楽しい思い出がある」と回答した人は、「海に行きたい」と回答した人が8割以上となった一方で、「海に行きたくない」と回答した人は5割以下にとどまっている。この結果を受けて、海野光行 常務理事は「子どもの頃に来るだけ楽しい経験をさせることが大事」と語った。そのため日本財団では、今後について、親子で楽しい海体験が出来る機会を提供したり、学校や民間企業などを通じた海洋活動の充実を図っていくなどしていくという。

No.	6	エリア	全国	投稿日	2019.7.24
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=955		



子どもの頃に海へ行くと将来結婚がしやすくなる！？親子が学んだ海とそなえ

海のそなえ未来会議2019夏 in ららぽーと豊洲が7月22日に行われた。このイベントは、子どもの水難事故をゼロにするために、「海」と「海のそなえ」について親子で学んでもらうもの。

イベントには、脳科学者として多数のメディアに出演している人間性脳科学研究所の所長・澤口俊之さんなどの有識者たちが登壇。「水平線の広さとか、においとか、あるいは波のリズムが脳にいい。欧米では、大人にとっても子どもにとっても海が良い影響を与えるという研究結果が出始めています。自然体験の中では、オーシャン（海）系と森林系がありますが、オーシャン（海）系が日本は多いので行かないのはもったいないですよ。なので、是非とも海に行ってください。そうすると、子どもは学習能力が上がるし、将来男女ともに結婚もしやすくなるんです」と、澤口俊之さんが脳科学の観点から海へ行くことのメリットについて語るなど、参加した親子は「子育てと海」について学んだ。

その一方で、海の危険性とそなえの重要性についても知った。日本ライフセービング協会の石川仁憲さんは「波がないところで泳ぎなさいとお父さんお母さんは言うかもしれませんが、実はそこが最も沖に向かう流れ“離岸流”のある場所なのかもしれない」と海の知られざる危険性について語った。実際に、海上保安庁の「海難の現況と対策」によると、子どもだけでも海での事故で毎年30人ほどが亡くなっているという。

そこで、イベントでは、海のそなえのひとつとして、ライフジャケットの試着コーナーを設置。その他にも、子どもの海への興味を促進するワークショップコーナー「海の生物塗り絵体験」なども開催。参加した親子は「絶対ライフジャケットを着けようと思いました」、「安全性への配慮も親としての責任があるので、しっかり子どもを守って楽しい夏が過ごせたらいいなと思います」と語るなど、夏本番となる8月を前に、海のそなえの大切さを楽しく学ぶ1日となったよう。

澤口俊之さんは「実は最近の子ども達は脳が疲れている。それが海に行くと癒されるという研究もあるので、ぜひ行ってほしいです」と語り、一般社団法人 吉川慎之介記念基金 代表理事・吉川優子さんは「安全ということだけではなくて、ライフジャケットがあると楽しい活動ができるんだということ、実際に着用して遊んでもらうことで体感してもらいたいなと思います」とも語った。

No.	7	エリア	全国	投稿日	2019.8.5
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=959		



危険生物に離岸流。夏本番に向けて知っておくべき“海のそなえ”

神奈川県鎌倉市の材木座海岸で海のそなえ体験イベント「海ロデオ」が、7月31日から8月2日まで行われました。子ども達はオリジナル遊びの「海ロデオ」のほかに、シュノーケリングやウインドサーフィン、沖まで漕ぎ出すアウトリガーカヌーなど、海を楽しむための様々なアクティビティを体験。磯を満喫する海洋生物観察会では、驚きの発見もありました。それが、サザナミフグ。NPOパパラギ“海と自然の教室”ダイビングインストラクターの工藤佑介さんによると「沖縄の方のフグですね。材木座海岸で見たのは初めてです」とのこと。子ども達は、このようなアクティビティから普段の生活では経験できない海の楽しい思い出をつくりました。

その一方で、単純に遊ぶだけでなく、海での「そなえ」も体験。

子どもたち全員がライフジャケットを着用、そして、クラゲ除けのクリームもしっかりと塗り、また、各アクティビティのインストラクターからも「そなえ」の重要性を繰り返し教わりました。実は、子どもだけでも海での事故で毎年30人ほどが亡くなっているそうで、海には危険も多くあります。そのため、このイベントでは、「知識」「行動」「装備」という3つの「そなえ」について、アクティビティを通じて楽しみながら学んでもらったのです。

そんな海の危険は、様々なところに潜んでいるそう。そこで、海の「危険」と「そなえ」について、インストラクターの方に教えてもらいました。

まずは、海にいる危険生物。

工藤さんは「これから秋にかけて水温が一番高くなるので、台風とか黒潮に乗って危険生物が漂着してくることがある」と言います。そんな危険生物について、磯で遊ぶ際に注意すべきものは「ひとつは、貝の一種の“フジツボ”。くちばしがあるので手で触ると簡単に切れてしまい、血だらけになっちゃったりするので、見つけても触らないようにだけお願い致します。また、魚だと“ゴンズイ”。ゴンズイ玉と言われたりするんですけど、群れになって集団で動いていることが多いです。そのゴンズイのヒレとかには毒があり、触ると刺されて腫れちゃったりするので、気をつけてもらえればなと思います。あとは、“ヒョウモンダコ”。小さいタイプのタコで、岩の表面などに擬態していたりするため見つけにくいですが、怒り出すと全身に青い線の紋様が出始めます。こうなったら絶対に触らないようにしてください。くちばしの部分に強めの毒を持っていて噛まれたりするので」と工藤さんは言います。

さらに、沖の危険生物については「一番メジャーなのが、クラゲ。アンドンクラゲとかカツオノエボシとかアカクラゲなどですね。例えば、カツオノエボシは、透明な水色で凄くキレイなのですが、キレイだと思って触ると刺されます。また、死んだと思っても毒はあるので触らないように」と工藤さんは注意しています。

No.	7	エリア	全国	投稿日	2019.8.5
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=959		

そして、もし危険生物に被害を受けた場合についても、注意が必要だそう。「まずは一緒に来ている親御さんなどに報告する。インストラクターとかライフセーバーがいる場合には真っ先に伝えてください。自己判断で間違った対処をしてしまうと逆効果になる場合もありますので。例えば、クラゲは種類によって刺され方とか対処の仕方が変わってきますし」と、海の危険生物とそなえについて工藤さんが教えてくれました。

さらに、海での危険は生き物だけではなくありません。日本ライフセービング協会のインストラクター・林亮太さんは「特に気をつけて頂きたいのが、“離岸流”と呼ばれるものですね」と言います。沖に向かって凄いスピードで流れる離岸流は、年に数回海に来るといふ人には見分けにくいところがありますが、その離岸流によって溺れが発生するというのが、毎年非常に多いとのこと。

そんな離岸流の見分け方があるそうで、「特に注意すべきなのが、海藻やごみといった浮遊物が沖に向かって筋をのぼすように流れている時。その場所や近くで離岸流が発生している可能性が非常に高くなります」と林さんは言います。また、離岸流が無いように見えても注意する必要があるそう。「ヨコの流れが発生しているところでは、最終的に、同じく反対側からヨコに向かって流れてくるところがあり、そのぶつかったところから沖に流れる離岸流が発生するポイントになります」とのこと。

さらに、海に来た時には、ライフセーバー・ライフガードに離岸流について聞いておくといいと言います。「潮の満ち引き、干潮の時間や満潮の時間によって、離岸流の発生する場所、発生する時の幅の広さなどが変化します。そのため、我々ライフセーバー・ライフガードに、ひと声かけて頂ければ『今日はこういうところで気をつけて遊んでください』とか『今日の海のコンディションはこうなっていますよ』というのをお伝えさせていただきます」とのこと。

そして、海の危険に対する「そなえ」も必要です。そのひとつが、ライフジャケット。林さんは「ボードの上からジャンプを試みたり、シュノーケリングを試みたりする中で、ライフジャケットを着ることによって、まずは浮くことが出来ます。そのため、泳ぎが苦手な子どもでも海に来るのが初めての子でも、安心して遊んで頂けるのが、ひとつの利点になると言います」と言います。

その他にも、もしも危険な状態に陥ってしまった時の「そなえ」も重要です。

例えば、もしも沖に流されてしまった時については「まずは絶対に慌てないということ。パニックになってしまうと、どうしてもその先に溺れてしまうという結果が待っていますので、まずは慌てずに。そして、もしライフジャケットやビーチボールなどの自分の体を浮かせるものがある場合は、それにしっかり掴まって頂いて、浮くということを大切に」と林さんは言います。さらに、「我々ライフセーバー・ライフガードは、海から岸に向かって手を振っている方というのは、もしかしたら助けを求めているんじゃないかなという“助けてサイン”という認識をしています。そのため、もし流されてしまった時には、岸に向かって大きく手を振って頂ければ、ライフセーバー・ライフガードが皆さんのところに駆けつけます」と、沖に流されてしまった時の「助けてサイン」を覚えておくといいと言います。

また、もし溺れてしまった場合は「まず落ち着いて、大きく息を吸い込んで頂くと、体の中に空気の袋が出来ますので、その状態で仰向けになって浮いて待つことが非常に大切になります。ライフセーバー・ライフガードがいる海水浴場ですと、空を向いて全く動かないという遊泳者の方は、もしかしたら自分で泳ぐことが出来ないのかもしれないと思い、声を掛けていくというケースが非常に多いです」と、浮いて仰向けに待つことが重要だと林さんは言います。

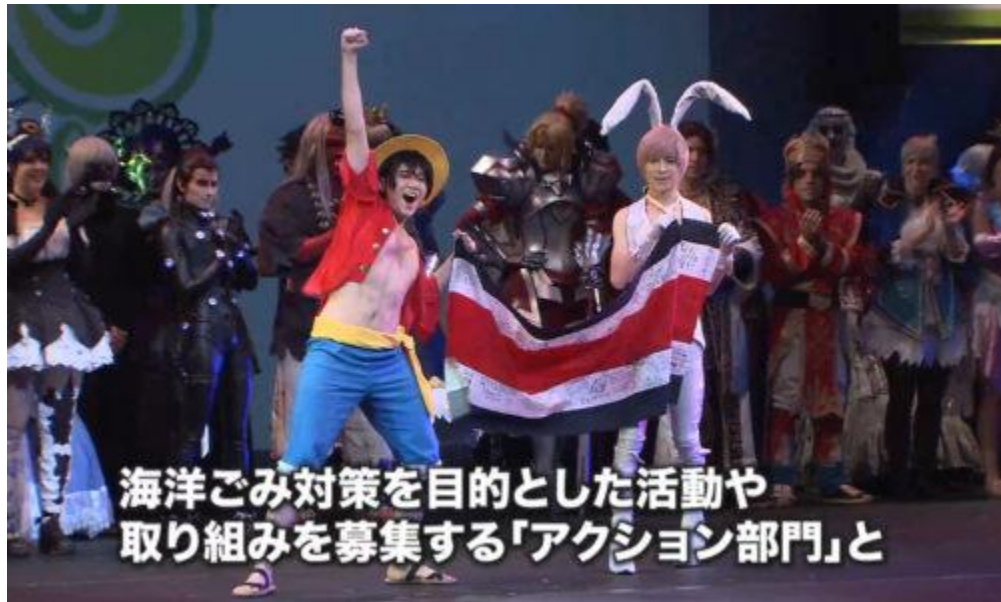
そして、もしも人が溺れていたのを見た場合は「まずは、その方に対して声を掛けて頂く。『私はあなたを発見しましたよ、大丈夫ですか、今助けを呼びますからね』という声かけをして頂くことによって、溺れてしまった方に、もうすぐ助けが来るんだなということを認識させてあげるというのが大切になってきます。そして、その方がいなくなるように、ずっと見続けて頂くことも大切です」と林さんは言います。その一方で、注意点としては「無理に助けにいかせようと、自分自身が溺れてしまう可能性もあります。ですので、ライフセーバー・ライフガードに声を掛けてください。私どもの方で救助に向かいますので」とのこと。溺れている人を見つけた場合は、声をかける、その人を見続ける、ライフセーバー・ライフガードを呼ぶという3つが重要だそう。

そんな「海のそなえ」について、海のそなえソーシャルアクションプロジェクト実行委員会事務局の小川恭子さんは「まずは親御さん自身が海とはどういう場所なのかをきちんと分かって海で過ごして頂きたいと思っています。それからライフジャケットなど命を救うものを、きちんと着けて頂きたいです。そして、子ども達は、親御さんの目の離れたところで行動しないように、親御さんはお子さんから決して目を離さずに行動して頂きたいです」と言います。

これから迎える夏本番。

海での楽しい思い出づくりのために、「危険」と「そなえ」を知ることが大切です。

No.	8	エリア	全国	投稿日	2019.8.8
カテゴリー	コスプレ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=962		



声優・古谷徹も応援！コスプレイヤー協力のもと、新たな海洋ごみ対策が始まる

8月4日、世界最大級のコスプレの祭典「世界コスプレサミット2019」で発表されたのが、新たな海洋ごみ対策プロジェクト。「進撃の巨人」に登場するエルヴィン・スミスのコスプレで登壇した日本財団の海野光行常務理事が、「このプロジェクトの敵は“海洋ごみ”であります。その海洋ごみは、われわれ人類自身のワガママが生み出した、言わば“巨人”です」と、「進撃の巨人」になぞらえて話したように、海洋ごみ問題は人類の脅威として深刻になっている。

そこで、この新たな海洋ごみ対策プロジェクトは、世界コスプレサミット実行委員会と日本財団が2020年にむけて開始。国内外のコスプレイヤーに協力してもらい、「一斉清掃活動」、「国際シンポジウム」、「アワード」という3つの柱を実行していくという。

その中でも、海野常務理事がコスプレイヤーに参加してもらいたいと話したのが、「アワード」。これは、海洋ごみ対策を目的に実施した活動・取り組みを世界中のコスプレイヤーから募集する「アクション部門」と、海洋ごみを減らす・再利用する・再生するなど意識したコスプレイヤーのコスプレ衣装レシピを募集する「コスチューム部門」を設置。そして、優秀な取り組みを表彰し、例えば、グランプリに輝くとアクション部門では100万円、コスチューム部門では20万円、というように受賞者へ活動奨励金まで贈呈するという。

また、この日、プロジェクトの発表だけでなく、コスプレイヤーによる会場周辺の清掃活動なども実施。「ONE PIECE（ワンピース）」に登場するポートガス・D・エースのコスプレで参加した外国人コスプレイヤーは「僕たちはもっと環境問題について意識を持つべきだと思うよ。プラスチックをどんな風に捨てているかとかね」と語った。

このように、国内外のコスプレイヤーに協力してもらい、海洋ごみ対策を進めていくという。世界コスプレサミット実行委員会の実行委員長・小栗徳丸さんは「コスプレイヤーさんは“表現者”として、『自分がやっているコスプレを通じて社会的な貢献をメッセージできる』ことに喜びを感じる、というのを気付かされました。そして、作品の愛があるゆえに、コスプレした時には、社会に対して良い働きかけが出来るように努めているのが、コスプレイヤーなのだと思っています。そのため、我々はこれからの1年で、この活動の賛同者を増やす、そして、国際シンポジウムでは、みんなの住んでいる地球のことについて語り合うというのが、『コスプレで世界をひとつに』ということの体現かなと思うので、大成功に向けてこのプロジェクトを頑張っていきたいと思っております」と語った。

さらに、声優の古谷徹さんは、「第2回の世界コスプレサミットからゲストとか審査員として参加させて頂いて、もう16回になりますが、コスプレイヤーにとっても“ごみ”というのは深刻な問題です。そのため、コスプレイヤーのみなんでごみ拾いに立ち上がるというのはとても良いことですし、世界中にたくさんのコスプレイヤーがいますので、ぜひコスプレイヤーの力を借りて、ごみを少しでも減らせたいと思います」と語り、「海洋ごみゼロ運動、いきまーす！」とエールを送った。

No.	9	エリア	全国	投稿日	2019.8.20
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=966		



山の中で！？世界初！水中ドローンとVRを使ったワクワク海体験

山に囲まれた日本有数の温泉地、神奈川県箱根。そんな山の中にも関わらず、「箱根園水族館」で体験できるのが、「Virtual Ocean Project」という世界初の海洋アトラクション。これは、普段は海洋調査などに利用されている専門的な水中ドローンをカスタマイズし、360度カメラを搭載。さらに、VR技術を組み合わせ、VR空間内からドローン进行操作するというもので、このコラボにより、まるで水中ドローンに乗り込んで海洋生物がいる水槽の中を泳いでいるかのような体験ができるのです。また、水中ドローンからの映像は、YouTube Liveを通して配信。世界中の誰でも疑似体験できるようになっています。

(Virtual Ocean Project公式サイト：<https://www.virtualocean.jp/>)

そんなこのイベントは、日本財団が行っている「海と日本プロジェクト」の一環として実施。日本財団 海洋事業部 海洋チームリーダー・宇田川貴康さんは「今回のVirtual Ocean Projectは海の体験機会づくりを意図して行っています」と語っています。実は、日本財団が行った調査によると、10代の約4割が「海に親しみをあまり感じていない」そうで、また、10代のおよそ1割は「小学校6年間で1度も海に行ったことがない」と、若者の海離れが進んでいるそう。そこで、多くの人に海に親しんでもらうため、また、海の問題を知ってもらうために、このイベントを開催したと言います。実際に、水中ドローンVRアトラクションのため、重度障害者や高齢者を含む多くの方が水中体験をすることが可能になっています。

イベント開始日の8月18日は進水式が行われ、車椅子YouTuberの寺田ユースケさんやVRアーティスト・せきぐちあいみさんなどが参加し体験。そして、子ども達も水中ドローンVRアトラクションを体験しました。体験した子どもは「ウミガメにぶつかったりするところが、ちょっとドキッとして面白かった」と、ひと夏のいい思い出となった様子。また、体験した子どもの親は「水族館にVR体験などがあると魚の勉強とか気軽にできると思うので、いろんな水族館にあるといいなと思います」と語りました。そして、VRアーティスト・せきぐちあいみさんは「VRって写真とか映像を観るというより、体験というひとつ深いところになるので、自分で体験してみてください」と言います。

そんなこのイベントは、箱根園水族館で7歳以上から体験でき、2019年8月31日まで実施しています。

No.	10	エリア	全国	投稿日	2019.9.17
カテゴリー	フードロス	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=970		



海洋ごみを作らない・出さない！豊洲市場で日本初のエビフェス！

9月14日に豊洲市場で行われたのが、「エビフェス！海老の日祭り in 豊洲」。「海老の日祭り」は、“海老の消費最大級”と、“敬老の日に長寿の象徴である海老を食して日本を元気にする”ことをテーマとしたグルメイベント。2019年で6回目を迎えた今回は、日本初のイベント「エビフェス！」として開催されました。

小池百合子都知事による後援の挨拶が行われたステージでは、9月16日の敬老の日を祝い、日本で活躍する長寿の人・長寿企業、そして、長寿の象徴“海老”に貢献した人物を表彰する「ベストシニア大賞」の授賞式が行われ、俳優の高橋英樹さんや料理愛好家の平野レミさんなどが授賞。また、海老に貢献した一流料理人を表彰する「ベスト海老料理大賞授賞式」なども開催されました。その一方で、屋台エリアでは、たいめいけんの三代目シェフ・茂出木浩司さんといった一流料理人たちが腕を振るった海老メニューが味わえる海老屋台、さらに、色々な海老料理の食べ比べができる「海老料理屋台&キッチンカー」が出店。その他にも、「お魚まるごと解剖&料理教室」も行われるなど、海老づくしのイベントが実施されました。

そんなこのイベント、グルメだけではなく、テーマの1つとなっていたのが、今や世界的な問題となっている「海洋ごみ」。茂出木シェフは「見ての通り日焼けをしています、趣味がサーフィンでして、週2回ぐらいは海に行っているのですけれども、海はプラスチックごみとか色んなものが打ち上げられていて、せっかくのキレイな海が汚されています」と語っています。また、平野レミさんも「魚を切ると中からプラスチックなどが出て来るとか、海のごみは魚が可哀想」と言います。

そのため、このイベントでは、海洋ごみ削減への取り組みとして、フェスで使われる全ての容器は、海洋環境への影響が低いと言われているバイオマスプラスチックを使用。その他にも、分別用のゴミ袋を配布し、ゴミステーションを設置したりもしていました。海洋ごみについて、高橋英樹さんは「海に囲まれて海で育った私達は、海の恩恵というのをとても感じておりますので、皆さんにも海をキレイにして欲しいなと思います。そして、海を汚さないように我々も心がけたいと思います」と語っています。そして、このイベントを主催した海老料理研究家の藤井稚代さんは「今後は、全国の市場でエビフェスを開催できるといいなと思っています。市場であれば、海産物を直結してお客さんに提供できるので。また、今回はバイオマスプラスチックを使用して、環境に優しい配慮をしていますので、そういった取り組みを、市場から私たち生産者から皆さんに発信できるようなイベントになるといいなと思います」と、今後の展望を語りました。

No.	11	エリア	全国	投稿日	2019.9.21
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=974		



迫る“スポGOMI甲子園 全国大会”！初の試みを生みの親が語る

高校生がごみ拾いを競い合う大会「スポGOMI甲子園」。その県予選を勝ち抜いた代表による全国大会が、9月23日に行われます。

もともとスポGOMIは、2008年から開催されているイベント。チームで制限時間内に、力を合わせてごみを拾い、その質と量をポイントで競い合います。そんなスポGOMIをつくり出したのが、一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブの代表理事・馬見塚 健一さん。

■趣味のランニングから生まれたスポGOMI

「ランニングしながら、ゴミを拾うということをやりはじめたのがキッカで、スポGOMIが誕生しました」と語る馬見塚さんは、もともとランニングが趣味。そんな日課のランニングをしていると、毎朝ごみが落ちていくことに気づきました。そこで、走りながらごみを拾うということをやりはじめたそう。さらに、馬見塚さんは「最初は汚いと思っていた走りながらのごみ拾いが、例えば、10m先のペットボトルはスピードを落とさないように拾ってみよう、次のお弁当のごみ袋は筋肉を意識して、大腿筋を意識して腰を落として拾うとかやっている内に、ちょっと楽しくなってきました。そのスポーツ的な体の動きをごみ拾いに乗ったことによって、ごみとの向き合い方が変わったという感覚もあって」と語ります。このスポーツ的な体の動きをごみ拾いに乗ったことが、スポGOMIの原点だそう。そして、「スポーツ化すると既存のごみ拾いが、ちょっと楽しくなるんじゃないかなと思って作り始めました」と語るように、その発想を具現化し、2008年に初のスポGOMIが開催されました。今では800回以上も開催され、国内だけでなく、海外でも行われています。

■スポGOMI甲子園は海洋ごみと若者が鍵に

そんな中、馬見塚さんが最近気になり始めたことがあるそう。それが、世界的な問題となっている海洋ごみ。馬見塚さんは「海洋ごみの問題は、スポGOMIをやっているだけでも痛感しています。海岸線でのスポGOMIがすごく多くなってきて、うんざりするようなプラスチックごみの山とか、スポGOMIというより作業に近いような形の現場とかを最近よく見ます。そして、海岸のごみで言うと、やはり海外からの漂着物であったりとか、あとは漁具であったりとかも多い印象です。見ていると、ほとんどのごみは陸から流れて海にいったごみが、最終的に海岸に打ち上げられているように思います」と語ります。そんな時、日本財団とのマッチングがあったそう。「今から社会に出る子たちが、今、世の中で話題になっている海洋ごみの問題について、触れるきっかけを与えることが出来ればいいなとも思っていた時、ちょうど日本財団さんとのマッチングという機会が生まれて、今回の企画がスタートしました」と語る企画が、スポGOMI甲子園。ごみ拾いを競い合うことで、海洋ごみ問題について考えてもらおうと、日本財団の「海と日本プロジェクト」の一環として誕生したのです。

No.	11	エリア	全国	投稿日	2019.9.21
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=974		



■ スポGOMI史上初の試みに不安

スポGOMI甲子園は、高校生による大会。ただ、高校生に特化する不安もあったと言います。「小さいお子さんから高齢者まで誰でもエントリーできる、誰でも優勝できるチャンスがあるのがスポGOMIなんですけど、どこかの年代に特化してやる大会って今までやったことなかったんです。特に高校生ってちょっとなんか恥ずかしかったりとか、そういう部分があるじゃないですか」と馬見塚さんは語ります。

■ 結果は大盛り上がりだった県予選

しかし、馬見塚さんのその不安は杞憂に。全国25の都道府県で開催された予選では、154校およそ1200人の高校生が参加し大盛況となりました。この状況に馬見塚さんは「いざ蓋を開けてみると、甲子園という名のもとで、『県で優勝すると全国にいけるぞ』というところが凄くモチベーションにもなったようです。特に地方の高校生とかは、非常にエキサイトして大会に臨んでくれました」と予選の感想を語ります。実際に、新潟県大会に出場した高校生は「楽しかったです。花火とかバーベキューした後とか、そういう遊んだ後に出たごみがいっぱいあるなと思いました」と言い、また、静岡県大会に出場した高校生は「誰かに任せるんじゃない、こういうのから目を背けるんじゃない、自らの問題だと思います。拾っただけキレイになるので、こういう活動がもっと増えればいいと思います」と、参加した感想を語っています。

■ 迫る全国大会と今後のスポGOMI甲子園

そして、9月23日には、遂に25都道府県の優勝者が集う全国大会が、東京都・墨田区役所周辺で開催されます。（※一般募集なし）

さらに、スポGOMI甲子園は、2019年の第1回で終わらせず、今後も続けていきたいと馬見塚さんは言います。「高校生特有だと思うんですけど、3年生で参加した子達が今回優勝できなくて、『後輩に託します』とか、正に甲子園のようなメッセージがすごく多くて。我々スポGOMI自体は、色んな環境問題ですとか、気候変動とか海洋ごみとか、そういったものに気づくキッカケづくりの活動だと思っているので、そのキッカケづくりのフェーズで、今後もやり続けていきたいと考えています」と、今後の展望を語っています。

高校生たちに新たな青春の1ページを刻む大会「スポGOMI甲子園」。その全国大会が間もなく幕を開けようとしています。

No.	12	エリア	全国	投稿日	2019.9.27
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=978		



自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【前編】

滋賀県初の江戸落語家として活躍しているのが、三遊亭わん丈さん。年間1,000席もの高座をつとめる若手落語家として大人気となっています。

そんなわん丈さんは、全国各地の学校や保育園などに呼ばれて、子どもを相手に落語を演じることも多いそう。そこで披露している演目のひとつが、「拝啓 浦島太郎さん」という海の落語。「この海ごみのせいで、海ごみのせいで、ワシらがあの本で読んだ浦島太郎の世界は海にはない」という場面があるように、この演目は、プラスチックごみなどの海洋ごみによる海の汚染をテーマにした、わん丈さんの創作落語。なぜ海の落語を披露するようになったのかを、わん丈さんに伺ってきました。

「海の落語の仕事をごさった方が、立川こしら師匠という凄い尊敬している大先輩なんですけど、そのこしら師匠が『新作落語をつくってやってくれないか。海のごみ問題という題材まで決まっている』という風におっしゃって」と、そのキッカケは立川こしら師匠からだったと、わん丈さんは言います。そんな中、自身で落語を創作するというのが、大きな意味となったそうで、「明日の古典落語になる可能性があるものを創作する人って、今、落語家が1,000人いるって言われている内100人いるかないかと言われているんです。その中の1人として僕を選んでもらえたというのが単純に嬉しくて。それで、こしら師匠のために頑張るじゃないですけど、この世界の先輩に期待してもらえるのは、とても嬉しいことだったので、海の落語を創作したんです」と語ります。

そんな創作した海の落語は、海洋ごみ問題を知ってもらうのに向いていると言います。「落語は想像する分、お客様が頭を使うんですけど、自分の体の中に僕らの言葉を落とし込んで世界観をつくるから、深く心に刻まれるんです。海で今起こっている問題って、知らない人が結構いると思うんですが、落語にすることで海洋ごみの問題を強く自分達の中に刻み込んでもらえると思います」と、わん丈さんは語っています。

「落語は聞いた人の心に深く残る」ということで、とあるお願いをしました。それが、海の落語についてのこの取材を、落語として披露して欲しいというもの。わん丈さんは、この無茶なお願いを快く引き受けてくれました。

No.	13	エリア	全国	投稿日	2019.9.27
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=982		



自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【後編】

若手落語家・三遊亭わん丈さんが披露している演目のひとつが、『拝啓 浦島太郎さん』。これは、プラスチックごみなどの海洋ごみによる海の汚染をテーマにした、わん丈さんの創作落語です。

そんなわん丈さんに、海の落語を披露するようになったキッカケや想いを伺ってきました。

■キッカケは立川こしら師匠
——海の落語をつくったキッカケは何だったのでしょうか？

海の落語の仕事をごくださった方が、立川こしら師匠という凄い尊敬している大先輩なんですけど、そのこしら師匠が「新作落語をつくってやってくれないか。海のごみ問題という題材まで決まっている」という風におっしゃって。明日の古典落語になる可能性があるものを創作する人って、今、落語家が1,000人いるって言われている内100人いるかいないかと言われているんです。その中の1人として僕を選んでもらえたというのが単純に嬉しくて。それで、こしら師匠のために頑張るじゃないですけど、この世界の先輩に期待してもらえるのは、とても嬉しいことだったので、海の落語を創作したんです。

■「情報」と「飽きさせない」を重視
——海の落語で重視していることは何でしょうか？

恥ずかしながら、僕は海で起こっている問題をほぼ知らなかったんです。それで、この海ごみの問題を聞いた時に、笑ってられない話なんですけれども、興味深いという意味で大変に面白くて。そこで、落語ってバカバカしく笑えるイメージがあると思うんですけど、どちかという、そういった笑いを入れるというよりも、情報量を多くして正確に伝えようと思いましたね。それでも十分に気が惹ける題材だと思ったので。

ただ、お子様に聞かせるということで、飽きさせないようにしようと。お子様って、数十秒に1回飽きてしまうポイントがあるんですよ。だから、展開を次も聞きたいと思ってもらえる楽しめるようなものにしようと心がけています。

No.	13	エリア	全国	投稿日	2019.9.27
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=982		



■ 落語は海の問題を聞いた人の心に深く刻める
——海の落語の魅力は何でしょうか？

海で今起きている問題って、知らない人が結構いると思うんですよね。ただ、海のことを知らない人は、ほとんどいないと思います。だから、「海」と言ったら、みんな海を想像できるので、落語家としてはこの題材は有難い。さらに、落語は、お客様が想像する分、頭を使うんですけど、自分の体の中に僕らの言葉を落とし込んで世界観をつくるから、深く心に刻まれるんですよね。だから、海の問題を強く自分達の中に刻み込んでもらえると思います。それが海の落語の魅力かなと。

■ 落語を通して海のごみ問題を気に留めて欲しい
——海の落語を聞いた人にどう思ってもらいたい、何を考えてもらいたいですか？

とにかく気に留めてもらいたいですね。というのも、海ではないんですけど、僕の生まれ故郷の滋賀県というところには、日本一大きな湖の琵琶湖というのがありますが、僕が生まれ育った約30年前は、とても汚かったんです。それが今、久しぶりに帰ると、もの凄くキレイになっていてビックリするんですよ。それは幼い頃に、今の僕がやっているように、色んな大人の方から、どうやったら琵琶湖がこれ以上汚くならないかと教えて頂いたおかげだと思うんですね。かと言って、僕達がごみを拾いまくったという記憶はないんですけど、ただ、僕も友達もごみをポイ捨てしている人を見たことないんです。だから、気に留めるというのが、凄く大事なことだと思うので、そのキッカケになってくれればいいなと思っています。

■ “お返し”するために海の落語を続けていく
——最後に、わん丈さんが今後、海の落語についてやっていきたいことをお聞かせください。

僕達が先人からやって頂いたことを今度は返していく番かなと思っているので、学校寄席など、この仕事も続けていきたいです。とてもやりがいがあって有難いことですし。本当にちょっとした努力で海もキレイになると思います。そういう大切なことを植えつければいいのは大事で、それぐらいだったら僕にも出来るんじゃないかなって、落語もお手伝い出来るんじゃないかなって。それに、学校寄席などで朝から働いていると、なんか清々しいんですよね。あと、明日も子ども達の前で落語するんやと思ったら、深酒もなくなりそうです(笑)。

「落語は聞いた人の心に深く残る」というわん丈さん。そこで、とあるお願いをしてみました。それが、この取材で語ってくれた「海落語を披露するようになったキッカケや想い」を、落語で披露してもらうというもの。わん丈さんは、この無茶なお願いを快く引き受けてくれ、見事な落語を披露してくれました。そちらはぜひ映像でご覧ください。

No.	14	エリア	全国	投稿日	2019.10.19
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=987		



スマートフォンでブリがさばける！？食から海を学ぶイベント

「さばけるマルシェ」が、東京都・新宿のタカシマヤタイムズスクエアで行われています。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として行っている「さばける塾」のイベントとして実施（日本さばけるプロジェクト：<http://sabakeru.uminohi.jp/>）。食育マルシェ実行委員会が主催する「食」と「食育」をテーマにした「食育プチマルシェ&食育ミニ映画祭（以下、食育マルシェ）」に5つのブースを設けて開催しています。食育マルシェ実行委員会は、服部学園理事長の服部幸應さんが実行委員長を務めています。

「さばけるマルシェ」について、日本さばけるプロジェクト事務局の長谷川恵一さんは「海をキレイにしましよとか、食文化でどういふものがあるのかななどを、より多くの人に知ってもらうために開催しています」と、その意義を語ります。そんなこのイベントでは、AR（拡張現実）を使って魚をさばく体験を実施。QRコードを読み取ると、スマートフォン上にブリが現れ、画面をスワイプすると3枚におろす疑似体験ができます。また、5つのブースを回るとプレゼントがもらえるスタンプラリーなども実施しています。

さらに、食育マルシェの一環として、「全国海の贈り物フェア2019 by海と日本プロジェクト」も開催。これは、全国47都道府県で実施されている「海と日本プロジェクト」の中から、北は青森県、南は沖縄県まで全国22エリアが集まり、各エリア選りすぐりの海産物を販売しているもの。全国海の贈り物フェア事務局の俣野喬仁さんは「豊かな海からできる産物の良さを、より多くの人に感じてほしいということで、今回のフェアを開催しました」と、イベントから海産物の素晴らしさを知って欲しいと言います。

そんな「さばけるマルシェ」と「全国海の贈り物フェア2019 by海と日本プロジェクト」は、10月19日から10月20日まで開催しています。

さらに、さばけるマルシェは、11月24日に服部栄養専門学校で「さばけるサミット」を開催する予定（※事前募集で定員40名の予定）。「実際に調理学校の方でお魚をさばく体験をして頂くなどの体験型のイベントとして開催する予定です」と長谷川さんは言います。

身近な食から海を学ぶ。それが海の環境と伝統を守る第一歩となるはずです。

No.	15	エリア	全国	投稿日	2019.10.23
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=990		



国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【前編】

「海辺のみまもりシステム」が、2019年7月6日から宮崎県の青島海水浴場に導入された。これは、離岸流や風による海の事故を防止するために、AIとIoTを活用した世界初のシステム。このシステムの共同開発に関わったのが、公益財団法人 日本ライフセービング協会の常務理事／溺水防止救助救命本部長で海岸工学の専門家でもある石川仁憲さん。

■実は離岸流に流されても浜辺付近に戻ってくる場合もある

離岸流は、沖へと向かう流れのこと。石川さんは「離岸流の発生している場所に立ち入ってしまうと、なかなか岸に戻ることができません。早ければ毎秒2mとも言われていますので、かなり早い速度で沖向きに流れます」と話す。その速度からオリンピックメダリストでも逆らって泳ぐことは難しいと言われている。

しかし、遙か沖にまで流されるわけではないという。「離岸流は、ある地点までいくと沖への流れが停滞します。一方、離岸流が発生していない波が砕けている場所では、岸向きの流れがあります。結果、循環するような流れが起きている場合が多いのです。波が砕けている場所は離岸流発生場所に比べて浅いので、比較的早い段階で足もつて、そして、波の力で浜辺に帰って来られます」と、石川さんは離岸流の仕組みを語る。

■溺水事故の要因のトップは離岸流

しかし、一方で、離岸流は溺水に繋がる可能性が非常に高いという。石川さんは「沖に流れるだけであれば、特に問題はないのですが、例えば、泳ぎが得意でないなどの理由から足がつかなくなることによって、焦ったり慌てたりパニックになってしまふ。そして、水を飲んでしまって溺水に至ってしまうようなケースがあります」と、その危険性を話す。実際に、海水浴場での溺水事故の自然的要因で最も多いのが、46%を占める離岸流となっている。そのため「一番重要なのは、沖にドンドン流されていくわけではないので決して慌てないこと、浮いていられる状態を保つこと、泳ぐことができれば波が砕けている場所へ沿岸方向（横方向）に泳ぐこと」と、石川さんは離岸流で流されてしまった時の注意点を話している。また、離岸流に流されないためには、「離岸流発生場所に入らないだけでなく、海に入った場所から時間とともに横方向に流されている場合は、やがて離岸流発生場所に入ってしまう危険性があるので、一度海から上がって元の場所に戻ること」と離岸流に流されないための注意点も話している。

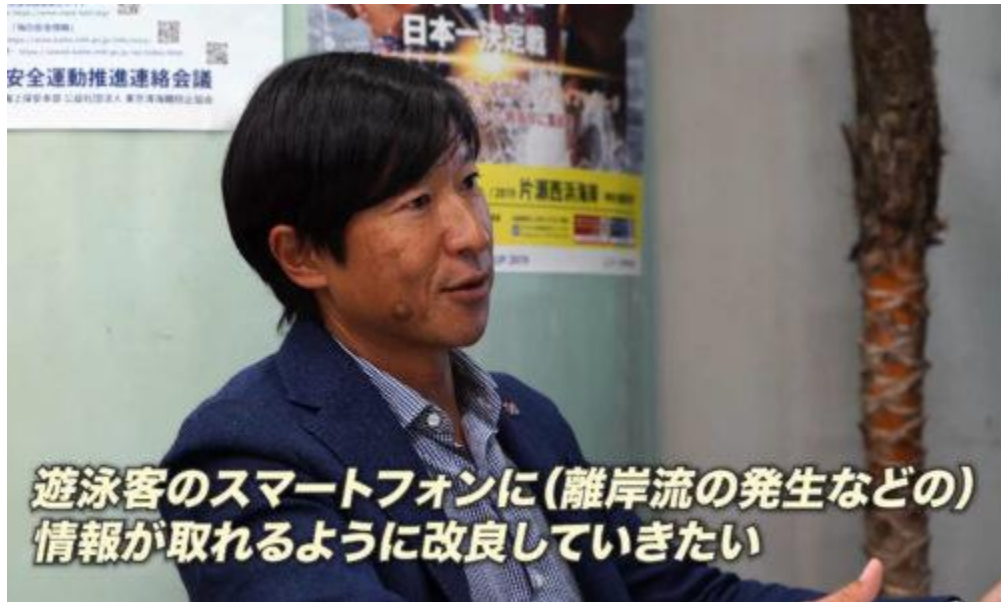
■離岸流を見つけるためには？

そんな溺水事故を引き起こしかねない危険な離岸流だが、その見分け方もあるという。石川さんは「海の表情を見ると、周囲に比べて波が砕けてない、水深が深いので海面の色が濃い、沖向きの流れによって下の砂が巻き上げられて濁った茶色の水が流れている、ゴミが集まっている、砕けた後の波の泡が集まっていることがあり、このようなことから見分けることが出来る」と話す。さらに、それだけでなく、「波打ち際に立って沿岸方向（横方向）を見ると、波打ち際の地形には、へこんだり、出っ張りたりしているところがあります。そのへこんでいるところは離岸流が発生している可能性があるのですが注意した方がいい。また、海の中から表に出ている“離岸堤”や“突堤”など、海辺には様々な構造物があります。こういう構造物の周りも離岸流が発生しやすい」と語る。海にある構造物や波打ち際の地形などから、危険な場所を把握することが出来るそう。

■視覚で判断しにくい離岸流を検知するシステム

とはいえ、石川さんは、そんな離岸流について、不規則な波と時間とともに変化する自然環境により、一般の人だと気づくのが難しいとも語っている。「波が大きければ、『今日はちょっと怖いな』というように視覚で判断できます。でも、離岸流のような流れというのは、なかなか視覚では判断できません」と話す。そこで開発されたのが、「海辺のみまもりシステム」。

No.	16	エリア	全国	投稿日	2019.10.23
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=994		



国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【後編】

海水浴場での溺水事故において、自然的な要因で最も多いのが、沖に向かう流れの「離岸流」。しかし、離岸流は一般の人だと気づくのが難しいという。公益財団法人 日本ライフセービング協会の常務理事 / 溺水防止救助救命本部長で海岸工学の専門家でもある石川 仁憲さんは、「波が大きければ、『今日はちょっと怖いな』というように視覚で判断できます。でも、離岸流のような流れというのは、なかなか視覚では判断できません」と話す。また、「離岸流の発生を認識して、遊泳客の皆さんに周知する役割がライフセーバーなのですが、ライフセーバーは何万人という遊泳客の皆さんに対して、十数人、もしくは数人で活動しています。さらに、時には遊泳エリア外で泳いでしまう遊泳客の方もいらっしゃるの、どうしても限定的な活動になることがあります。こういった課題に対しても対応していかないと、離岸流などによる海の事故を防止することの難しさを語っている。そこで、開発されたのが、「海辺のみまもりシステム」。

■ 離岸流をAIで検知してIoTを活用して周知

海辺のみまもりシステムは、海岸に設置したカメラで撮影した映像をAIが分析。そして、離岸流の発生が検知されると、海岸にあるモニターで海岸利用者に離岸流エリアへの立ち入り注意を喚起。また、遊泳客が離岸流エリアに立ち入ると、ライフセーバーのスマートウォッチに通知。こうすることで海の事故を未然に防ぐというもの。2018年に千葉県御宿海岸で実証実験が行われ、2019年7月6日からは宮崎県の青島海水浴場で導入されている。システムの共同開発に関わった石川さんは「ライフセーバーの目に先端技術の目をプラスすることで、危険をあらかじめ察知し、より迅速かつ確実に遊泳客の皆さんに伝えるシステムです」と話す。

■ 沖向きの強い風も検知

さらに、離岸流だけではなく、沖向きの強い風も検知し、注意喚起を行うという。日本の事故は、離岸流以外に“風に流される”というのが、自然的な要因では2番目に多い。海水浴場には、浮き輪、そして、イルカ型などの大きな浮力体があるが、風の影響を受けると遠くへと流されてしまうという。そして、「さらに危険なのが、浮力体に乗っていたが滑って落ちてしまって、浮力体だけが沖にっってしまう、自分はそこに足がつかないこと。パニックになってしまうので、これも事故の要因になります」と、石川さんは風に流されることの危険性を話し、「ですので、沖向きの強い風が吹いたら、危ないですよというアラートを鳴らし、さらに、流される人がいたら、ライフセーバーのスマートウォッチに『あそこまで人が流されています』と伝えるというシステムの開発を行っているところです」と語る。この離岸流だけでなく、風で沖合に流される遊泳客も検知するAIとIoTを活用したシステムは世界初だそう。

■ ライフセーバーにも多くのメリットをもたらす

そんな海辺のみまもりシステムは、ライフセーバーにもメリットがあるという。石川さんは「ライフセーバーの守備範囲を、AIによってより広げることが可能というのがまずあります。また、慣れている場所ですと活動していると、『ここでは今まで離岸流は発生していない]とか『ここは決して危険な場所じゃないな』と考えてしまう時があります。でも、AIが先入観なく離岸流の発生を通知してくれることで、バイアスを取り除き、安全管理を客観的かつ確実に行える体勢が整います。実際に、千葉県の御宿海岸では、遊泳区域外の離岸流が今まであまり発生していなかった場所でAIが離岸流を検知し、重大な事故になる前にライフセーバーによって迅速な救助が行われたという報告も聞いています」と、メリットと実際の成果もあったと話す。

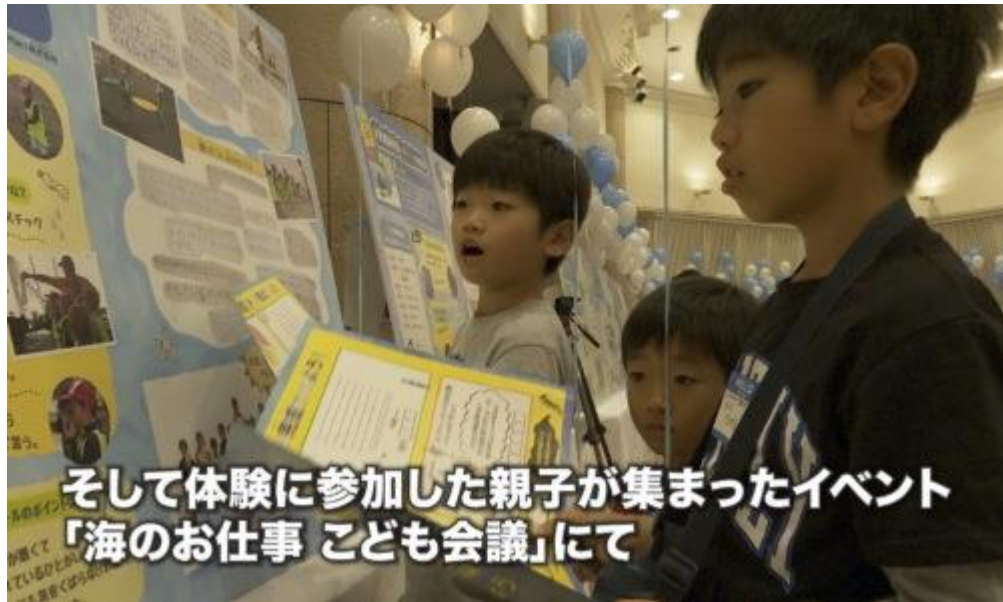
■ 今後は世界を視野に入れて展開

今後、海辺のみまもりシステムは、より進化させていく予定だという。「開発段階ですが、日本財団様に助成して頂き、遊泳客がスマートフォンで離岸流の発生場所などの情報を得られるように進めています」と、石川さんは語る。

さらに、このシステムを世界で役立てたいとも考えているという。実際に、国際ライフセービング連盟などが2019年10月8日から10日にかけて南アフリカで国際会議を開催した際、海辺のみまもりシステムを紹介。オーストラリアの参加者からは「共同研究は可能か？」と尋ねられるなど、各国から称賛と問い合わせが相次いだ。「オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、イギリス、そしてアジア圏でも離岸流による事故が多いので、システムを諸外国にも提供していければ、水辺の事故ゼロに向けて貢献できるかなと思います」と、石川さんはシステムへの期待を語っている。

近い将来、日本発の海辺のみまもりシステムが、世界中で海の事故を減らすかもしれない

No.	17	エリア	全国	投稿日	2019.11.13
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=999		



子ども目覚める海の仕事体験～約100人の子どもが体験した“海のお仕事”の集大成！海のお仕事図鑑～

東京都港区で、海のお仕事図鑑プロジェクト実行委員会によるイベント「海のお仕事 こども会議」が11月10日に行われました。これは、2019年の夏、海のお仕事体験イベントに参加した親子が集まったもので、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環として実施されたものです。

夏に行われた海のお仕事体験イベントは、「ライフセーバーのお仕事」や「水族館飼育員（イルカトレーナー）のお仕事」、「浜の調理師のお仕事」といった14種類15カ所で行われたものを子ども達が体験しレポートしました。体験イベントには総勢100人ほどの子どもが参加したと言います。体験した子どもは「漁師の仕事は、網を投げて魚を捕まえるぐらいの仕事かなと思っていました。でも、子どもの魚を生け簀で育てて、餌をあげたりする仕事とか色々あって、すごい驚きました」と、知られざる海のお仕事を体験できたようです。

そして、「海のお仕事 こども会議」では、その子ども達の体験レポートをまとめた「海のお仕事図鑑」が、参加した子ども達に贈呈されました。その他にも、お仕事体験で学んだことから出題されるクイズ大会、活動テーマソング「うみのこ」のライブなども実施されました。そんなこのイベントは、子ども達に海のお仕事を通して得た海への意識や行動の変化を続けてもらうことが目的だそうです。実際に、参加した子どもの中には、「最近、家の近くの砂浜がペットボトルなどのごみが落ちていてすごい汚くて。お母さんと一緒に拾ったりしたけど、そういうことを今後もやりたいです」と語る子どももいました。また、親の中には「娘は海に対する興味が大きく変わったと思います。それに『海ってこういうところもあるんだね』と親子で会話が弾んだりといったことが増えました」と、海のお仕事体験を通じて変化があったと語る人もいました。

そんな海のお仕事図鑑プログラムは、2020年も実施される予定と言います。海のお仕事図鑑プロジェクト実行委員長の山本徹さんは「2019年は、海のお仕事を子ども達にじっくり体験させることに軸足を置きました。リアルキッズニアのように、実際に子ども達が現場に行って、プロの方達と一緒にリアルに仕事を体験するというものです。2020年は、この事業が続くという前提でのお話ですが、2019年に成果があった、人気があった職業はさらに深掘りできたらと思っています。それと同時に、例えば、海の恵みを食卓に届けるというものでは、漁師さんが魚を獲るという仕事もあれば、市場で流通させる仕事もあれば、加工する仕事とか色々ありますので、単発ではなくて、ストーリー性を持った体験を提供できるよう広げていきたいと思っています」と語っています。

No.	18	エリア	全国	投稿日	2019.11.27
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1003		



ジブリで学んだ糸曾監督の流儀～初の劇場アニメ公開！糸曾賢志監督が“恩師・宮崎駿監督の教え”と“自然観”を語る～

糸曾賢志監督による初劇場アニメ「サンタ・カンパニー ～クリスマスの秘密～」(以下、サンタ・カンパニー)と「コルボッコロ」が、2019年11月29日から同時上映されます。

2つの作品は以前に手掛けたもので、今回、劇場アニメ用にリニューアル。作品同士がリンクするようなストーリーに変えているそうです。糸曾監督は「2つは全く違う作品なんですけど、同時上映した理由が分かる仕組みはつくってあります」と語っています。

■ 2つの作品は「自然」がテーマの1つ

そんな2つの作品は、「自然」がテーマの1つになっているそう。糸曾監督は「コルボッコロは、人間のせいで自然が無くなってしまったという街が舞台になっています」と語り、そして、「当たり前にある自然について、そして、それを犠牲にしている人間について考えてもらいたい」と言います。

一方で、サンタ・カンパニーは、雪国の山に囲まれたところにある会社が舞台。糸曾監督は「自然の中で生きることや自然の中で育つことはどういうことか、といったことは大きいテーマではないですが水面下にあります」と言います。

■ 地面に耳を当てていた師匠・宮崎駿監督

そんな考えさせられるテーマを作品に盛り込んでいる糸曾監督は、演出やテーマ設定などについて、師事していた宮崎駿監督に叩きこまれたそうです。そして、宮崎駿監督が「毛虫のボロ」を企画していた時に、驚いたエピソードがあると言います。「ある時、ジブリに行ったら、宮崎さんが地面に耳を当てていて、『聞こえない！』と怒っているんです」と言います。何に怒っていたかというと、植物は地面に生やした根から栄養分や水分を吸い取っています。そうなると、虫などの小さいものが聞いている音や見えている光があるはずで、そのために植物をずっと観察していたものの何もわからず、虫の世界がつかれないと宮崎駿監督は嘆いていたそうです。糸曾監督は「僕が考えたこともないようなことを一生懸命やっていたので、見ている目線がそもそも違うなと思って驚いたんです。その反面、ヤバイ人だとも思いましたけど(笑)」と当時のことを思い出し、語っています。そんな教えを受けた糸曾監督は「世の中にある課題をどう作品で解決するか、自分なりにどう答えを出すか、ということテーマに作品をつくっている」と言います。

No.	18	エリア	全国	投稿日	2019.11.27
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1003		



■ 環境問題にも取り組んでいる糸曾監督

また、糸曾監督は、作品のテーマに自然を盛り込んでいるように、自然保護に関する取り組みも行っています。その1つが、日本財団と環境省が海洋ごみ対策を目的として実施した全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」でのごみ拾い。大阪成蹊大学の芸術学部長・教授でもある糸曾監督自身が呼びかけ、海ごみゼロウィークに大学や関連校で、学生たちとごみ拾いを実施したのです。「今、大学の中でも、SDGsというのが課題にもなっていて。また、5月30日のごみゼロの日は僕の誕生日なんです。それで縁があるなと勝手に思って、やりたい学生を集めて、街でのごみ拾いを実施しました。100人ぐらいの学生たちが参加してくれましたね」と、糸曾監督は言います。

さらに、講師として教鞭をとっているバンタン高等学院とも連携して、産学協同プロジェクトを実施しました。その1つが、学生達がサンタクロースの恰好をしてごみ拾いをするというものです。「ゴミ拾いイベントは、もともとバンタンさんで企画されていて。その企画に加えて、サンタ・カンパニーが公開されるので応援したいと、サンタ帽を被ってごみ拾いをしてくれたんです」と、糸曾監督はその経緯を語っています。そんな学生によるごみ拾いについて「学生が自発的にごみ拾いをするというのは、キレイにするだけでなく、ごみをポイ捨てするなよ、ということを遠回しに言っている行為だと僕は思うんですよ。だから、とてもいいことだなと思っています」と言います。そして、実際にごみ拾いをした学生はというと「こういう夢中になれることはスゴイ好きなので楽しかったです。キレイになって爽快感もありました」、「やっていて気持ちいいから、ごみ拾いの機会があれば今後も行こうかなと思います」と、充実したごみ拾いになったようです。

■ 学生のためにも取り組みを次の段階へ

そして、糸曾監督は、今後、環境問題への取り組みを広げていきたいと言います。「芸術系の高校生の中には、『描いた絵が世の中のために何になるのか』というのが分からずに困っている子が結構いるんです。それならば、例えば、高校生にごみ袋のデザインをしてもらい、それを街の人に届ける。すると、『自分の描いた絵が役に立った』と思ってくれるかなと考えているので、そういった活動もしたいです」と語っています。

■ 海をテーマにした作品も企画中

さらに、取り組みを通じて得た経験を作品にも反映させたいと言います。「海をテーマにした作品をつくりたいなと思って企画しています。海をキレイにしろと言われると、面倒くさいと思う子がいるかもしれないけれど、アニメを観て、楽しいと思いつつも海がこのままだとヤバイと思ってくれたり、調べるキッカケになってくれたりすると、それはアニメでやる意味があるかなと思うので。これからも世の中にある問題というのを、僕の技術で解決することに挑戦していきたいです」と語っています。

No.	19	エリア	全国	投稿日	2019.12.1
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1009		



シーパラの水槽に疑似ダイブ～横浜・八景島シーパラダイスに期間限定の「水中ドローン×VR」の新アトラクションが登場！～

横浜・八景島シーパラダイスにある700種類、12万点の生きものたちが生活する日本最大級の水族館「AQUA MUSEUM」。この水族館に「Virtual Ocean Project」という新アトラクションが期間限定で登場しました。これはVRと水中ドローンによって、なんと水槽の中を泳いでいるかのような体験ができるというものです。普段は海洋調査などに利用されている専門的な水中ドローンをカスタマイズし、360度カメラを搭載。さらに、VR技術を組み合わせ、VR空間内からドローンを操作する仕組みとなっています。

そんなこのアトラクションは、箱根園水族館で2019年の夏に行われた第1回目をさらに改良したもので、2人同時に体験が可能です。さらに、なんと視線入力技術によっての操作も可能になりました。これにより、体を動かすことのできない重度障がい者も水槽探索の体験ができます。テレビ東京のVTuberドラマ「四月一日さん家の」などを手掛けた株式会社ハローの取締役・赤津慧さんは「視線入力技術はここ数年でも特に進歩している技術です。こういったVRと視線認識とを組み合わせたものは、様々な方にVRのサービスを提供できる革新的な技術なんじゃないかなと思います」と語っています。

そんなVirtual Ocean Projectは、日本財団が行っている「海と日本プロジェクト」の一環で、多くの人に、海の問題を伝える、そして、海体験をしてもらうために行っています。日本財団 海洋事業部 海洋チームリーダーの宇田川貴康さんは「水中ドローンとVRを使うことによって、ただ聞いたり見たりだけではなく、自ら操作することで能動性を高めていく、そんな双方向性をもった体験と学習が実現できると思います」と言います。また、横浜・八景島シーパラダイス総支配人の鈴木康生さんは「水族館を営んでいるものの使命として、同じように学習と体験というところに力を入れておりますので、このプロジェクトが成功して、水中の動物を見ることができるといったのが一般的になればいいなと思っています」と語っています。そして、実際に体験した子ども達も「色んな魚をいっぱい見れて楽しかったし、キレイでした！」と、大満足だったようです。

このVirtual Ocean Projectは、2019年11月29日（金）から12月8日（日）までの期間限定で開催しています。

No.	20	エリア	徳島県	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1015		



黄色い小さな可愛らしい花をつけるが
実は厄介者

海辺の生態系を壊す黄色い脅威～徳島県小松海岸に根付いた厄介者“ナルトサワギク”～

徳島県の小松海岸に咲いているのは、ナルトサワギク。1年中、黄色い小さな可愛らしい花をつけるが、実は厄介者で特定外来生物に指定されている。

徳島大学大学院 生態系管理工学研究室の鎌田磨人教授は「ナルトサワギクは鳴門で初めて発見されたのですが、ここだけじゃなくて、高速道路を通じて広がっているところもあり、さらには、今、日本中に広がっています」と話す。南アフリカ原産のキク科の多年草「ナルトサワギク」は、海辺の埋立地の緑化に使われた緑化資材の外国の種子に交じって、日本へ入ってきたと考えられている。およそ40年前に鳴門市瀬戸町で発見されたことが名前の由来となったこの植物は、在来生物を駆逐する危険性があるという。「人間にとってはたちまち影響はないと思います。ただ、周りの植物、周りの自然にとっては、どんどん広がっていくと、他の植物を駆逐していきたりするので、知らない間に周りの風景が変わってしまうかもしれない」と、鎌田教授はその危険性を語っている。

そんなナルトサワギクは、繁殖力が非常に強い。特に砂浜では、種子から芽吹くだけではなく、茎が砂に覆われることで、茎から根を出して増えることまで出来るのだ。しかも、その繁殖力から他の植物などを駆逐してしまう可能性がある。さらに、根を幅広く伸ばして繁殖するため、斜面を根で固めてしまうなど、砂地の形を固定化してしまう危険性があるという。そして、砂地が固定化すると、砂地でない雑草なども生えてしまうため、他の生物が入り込みやすくなり、水辺の生態系を崩しかねない状況を招いてしまうとも言われている。

そこで、徳島ライフセービングクラブなどは、ナルトサワギクの除去を行っている。この日は、およそ15人が徳島市の小松海岸で除去活動を行った。活動に参加した人は「ナルトサワギクのことは初めて知りました。今回聞いて、ちょっとビックリしました」と話す。除去活動では、およそ30袋分を回収。しかし、種子などのせいで、また生えることもある。そのため、今後も継続的に除去していくという。「海辺の環境が悪くならないように、なんとか文字通り水際で食い止めたいですね」と、除去活動に参加した人は危機感を語っている。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinとくしま」
協力：四国放送株式会社

No.	21	エリア	石川県	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1022		



麦ストローが広げる脱プラの輪～1人の女性の海への想いから石川県小松市で生まれた大麦ストロー～

最近、世界中で問題となっている海洋プラスチックごみ。街にポイ捨てされたペットボトルやレジ袋、プラスチックのストローなどは、川から海へ流れていきます。世界の海に流出するプラスチックごみは、なんと毎年800万トンにも及ぶと言います。そんな中、石川県から脱プラスチックの動きが広がっています。

■ 人気ホテルで使われている大麦ストロー

トリップアドバイザーが発表した「トラベラーズチョイスホテルアワード2019」のサービス部門で1位になるなど、観光客からの人気が高い「金沢彩の庭ホテル」。このホテルのレストランの飲み物コーナーに置かれているのが、大麦ストローです。金沢彩の庭ホテルの支配人・本郷一郎さんは「まず、最近、環境保護ということで、プラスチックごみを無くそうと。そんな中で、プラスチックのストローを自然でつくったものに変えたいと思っていたところ、大麦のストローを目にしました。また、飲み物でも県内産の大麦の麦茶を探しました。そして、一緒に出すことで食文化の発信にも繋がると思い、その2つの点で大麦のストローを使わせて頂いています」と言います。

■ 海を守るため大麦ストローを企画した蒲田さん

そんな大麦ストローを企画したのが、ロータスコンセプトの蒲田ちかさん。「ウミガメの鼻に、プラスチックのストローが刺さっている動画を観まして、海が汚れるのが許せませんでした。あと、子どもにずっと美しい海を残したいと思って。そんな時、『小松市に大麦がある。あの茎だったらストローが出来るかもしれない』と聞いたのが大麦ストローを知ったきっかけです」と蒲田さんは言います。また、「土から生まれ、土に還る」ことに意味があると思ひ、紙ストローではなく大麦ストローに着目し、本格生産を2019年5月下旬から始めました。

■ 蒲田さんの海への想いが製造の輪を広げる

その材料を提供してくれたのが、小松市の嵐農産です。そんなストローの材料は、通常は細かく刻んで畑の肥やしにする大麦の茎を長い状態で残したものです。この大麦は、海を守りたいという蒲田さんの強い思いに共感し、嵐農産がなんと無料で提供してくれることになりました。その大麦は、2週間ほど乾燥させます。

その後、茎をカットして皮をむくのは、こまつ育成会に入所している人達です。社会福祉法人こまつ育成会サービスセンターあしたの北濃松喜所長は「安宅海岸でクリーン・ビーチという海をキレイにする作業があって、そこで、プラスチックごみがたくさんあることに我々も気付いたわけです。うちの製品も作業も『環境にやさしい』が目標ですので、大麦ストローの製造はそこにちょうど結びつきました」と、携わったキッカケを語っています。その後、こまつ育成会を中心とした就労支援施設にて煮沸消毒、そして、乾燥をさせて完成です。

完成した大麦ストローは、2019年7月から販売が開始されました。「やっぱりひとりでは出来ないんで、小松の地域の方であったり、デザイナーさんであったり、箱屋さんであったり、色んな方が携わって、ひとつのものが出来ました」と蒲田さんは言います。

No.	21	エリア	石川県	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1022		



麦ストローが広げる脱プラの輪～1人の女性の海への想いから石川県小松市で生まれた大麦ストロー～

■ 石川県だけではなく東京などでも販売

そんな大麦ストローは、今、蒲田さんの海を守りたいという思いと共に広がり、金沢彩の庭ホテル以外でも使われ始めています。その1つが、奥能登の美しい海が見下ろせる「つばき茶屋」。大麦ストローは長さがバラバラですが、短いものも活用するため、このお店では小さいドリンクも提供し始めました。さらに、大麦ストローを使っている理由をお客さんに伝えてもいます。お店で働く番匠さとみさんは「昔から海のそばで育っているので、ごみが増えてきているのも見ていて、ごみを減らすためにちよつども出来ることがあったらいいなと思っていて。そんな時に、同じ想いの人達がテレビで観て、自分が出ることから始めようというのがキッカケです」と大麦ストローを使い始めた理由を語っています。

さらに石川県だけでなく、日本橋にあるセレクトショップ「エシカルバイフォワード」など東京都、さらには、愛知県や富山県でも流通していて、今では、10カ所以上で取り扱われています。

■ 大麦ストローを地球中に広げたい

蒲田さんは「脱プラスチックという動きで、ストローというのはプラスチックの中でも小さなアイテムです。でも、小さなアイテムを変えられないと、その背景にある大きなプラスチックの問題には対抗できないと思います」と言います。実はプラスチックのストローは、海洋プラスチックごみのわずか0.03%程度です。しかし、蒲田さんは「たとえ小さな取り組みでも、なんとかして海を守りたい」という想いを込めた大麦ストローを、さらに広げていきたいと言います。「海外展開も最初から視野に入れていましたので、例えば、海外から来られた方が、大麦ストローを買って自分の国に持って帰るというように、地球中へ飛んだらいいなと思っています」。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」

協力：石川テレビ放送株式会社

No.	22	エリア	岩手県	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1025		



海の保育園で育つホシガレイ～岩手県で減少する幻の高級魚を子ども達が放流～

岩手県で幻の高級魚とも言われる希少な魚「ホシガレイ」の生息数が、今、減っているという。その理由が、アマモ場の減少。

アマモ場はアマモと呼ばれる海草が茂っている浅い海のこと、小さな魚にとっては無くてはならない場所だという。水産研究・教育機構「東北区水産研究所」の清水大輔主任研究員は「アマモ場には小さな魚の餌になるエビやカニなどがたくさんありますし、大きな魚も入ってきにくいということで、小さな魚にとっての保育園のような生育場としての機能があると考えています」と話す。多くの魚が育つことから「海の保育園」と呼ばれるアマモ場だが、東日本大震災に伴う津波や地盤沈下で大きな被害を受けた。そのため、ホシガレイの生息数もさらに減っていると考えられているのだ。

そこで、水産研究・教育機構「東北区水産研究所」では、今あるアマモ場を最大限に生かした資源回復の研究を続けている。その一環が、ホシガレイの稚魚の放流。アマモ場が数多く点在する宮古湾の奥「赤前地区」では、2018年7月、地元の小学生が5000匹もの稚魚を放流した。大きいものでは、1年ほどで40cmにもなるというホシガレイを放流した小学生は「大きくなって帰ってきて欲しいです」、「宮古の海は美味しい魚が食べられるから好きです」と話す。

美味しい魚を育む宮古の海では、子ども達が願いを込めたホシガレイが育っている

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin岩手」
協力：株式会社IBC岩手放送

No.	23	エリア	京都府	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1027		



子ども探偵団が海ごみを調査～京都で子ども達が海洋ごみを調査！80袋のほとんどが生活ごみ～

海洋ごみは世界規模で大きな問題となっています。海洋ごみは海岸に打ち上げられて景観を損なったり、海の生き物を傷つけるなど、様々な問題を引き起こしているのです。

そんな中、海に面していない京都府亀岡市では、2013年に川と海的环境保全を目的に、内陸に住む人たちが出来ることを提案・実行するため「川と海つながり共創（みんなでつくろう）プロジェクト」を設立。毎年夏には環境学習プログラムの「子ども海ごみ探偵団」を結成し、河川ごみや海洋ごみの調査を実施しています。2019年は、舞鶴市の「野原海水浴場」周辺で調査を行いました。川と海つながり共創（みんなでつくろう）プロジェクトの委員長・塚本政雄さんは「（亀岡市を流れる）保津川とは直接繋がっていませんが、日本海側でも多くのごみが出ているということで、舞鶴のごみの調査をやりましようとなりました」と、その経緯を語っています。

調査を実施すると、美しく豊かな海の奥ゾロ浜にも危機が迫っていました。そこには、大量のごみがあったのです。その海洋ごみを参加者47人で、80袋も回収しました。さらに、どんなごみがあるかを世界共通の「国際海岸クリーンアップ」調査品目で記録します。その調査品目は例えば、「破片／かけら類（直径2.5cm以上のもの）」という項目でも、硬質プラスチック破片、プラスチックシートや袋の破片、発砲スチロール破片、ガラスや陶器の破片と4つに分けて集計するように、様々な品目ごとにデータを取っていきます。その結果、ペットボトルが129個でトップの個数、歯ブラシや文具など生活雑貨が90個と2番目に多い個数となるなど、そのほとんどが生活ごみでした。そして、その調査結果は、ごみ問題解決のために活用されると言います。参加した子ども達は「大きい発砲スチロールやペットボトルがたくさんあったので、もしまた今度見かけたら拾ってみたいです」、「海には国境がないから、粉々になっても届くことを知ってビックリしました」と感想を語っています。

海洋ごみ問題を目の当たりにした子ども達。その体験が問題解決への第一歩になるはずです。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin京都」
協力：株式会社京都放送

No.	24	エリア	山梨県	投稿日	2020.1.13
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1029		



海なし県・山梨を流れる荒川で採取されたのが
マイクロプラスチック

マイクロプラ汚染 山中でも進行～海なし県・山梨発 大学教授が取り組む海洋汚染への取り組み～

帝京科学大学自然環境学科の仲山英之教授と研究室の学生たちが、山梨県を流れる荒川を調査。すると、マイクロプラスチックが採取された。仲山教授は「ある程度、想像はしていましたが、やはりマイクロプラスチックが出てきたんだと思いました」と話す。

今、世界中で問題となっているマイクロプラスチック。魚貝類などの生態系に影響を及ぼすと言われ、このごみは深刻な海洋汚染を引き起こしている。仲山教授は普段は物理化学を教えているが、今後、重大な環境問題になることが予想され、また、陸域のマイクロプラスチック汚染の実態がほとんど調べられていなかったことから、2年ほど前から海なし県・山梨を中心にマイクロプラスチックの調査・研究を実施している。この日は、0.1mmの小さいものまで採取できるプランクトン用のネットを使い、荒川の流水の中から採取した。その後、大学の研究室に持ち帰り、仲山研究室の学生達と分析したところ、今回確認されたのは、ポリプロピレンとポリエチレン。私たちの身の回りでは、ポリエチレンはレジ袋や食品容器、ポリプロピレンは包装フィルムなどに使われているという。仲山教授は「やっぱり山梨県の川もプラスチックで汚染されていたのだと思いました。一昨年、富士川とか笛吹川、釜無川を調査した段階で、山梨県全域でマイクロプラスチック汚染というのが起きているんじゃないかという印象を持っていて。そして、さらに調べ出してみると、小さな荒川でさえも、しかもその上流でさえもマイクロプラスチックが出てきました。人が生活しているところは、どこにでもマイクロプラスチックが出てくる印象を受けました」と語る。河川の上流でまでマイクロプラスチックが検出されたことを危惧する仲山教授は、この結果を学会発表や論文で公表する予定。

「プラスチックをなくして暮らしていくのはほぼ不可能。だけど、少なくとも言えることは、使わなくていいところにプラスチックを使わないことが必要だと思います」と仲山教授は話し、また、「放置されたプラスチックは必ずいつか劣化します。そして、雨が降れば側溝に流れ、そこから川へと流れて海にいくということがたぶんあると思う。そのため、放置してあるプラスチックに気が付いたら片づけることが必要です」と、プラスチックごみを流出しないように習慣づけて欲しいという。そして、仲山教授は今後、河川に存在するマイクロプラスチックが、どこから流れ込んでいるのか調べていく予定。

海にごみを捨てないのはもちろん、汚染を防ぐために普段の生活を見直す時代になってきている

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinやまなし」
協力：株式会社山梨放送

No.	25	エリア	大分県	投稿日	2020.1.20
カテゴリー	伝統文化	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1032		



ジョーヤラ担う大分の中学生～古き良き海の祭りを継承し続ける大分県佐伯市の子ども達～

大分県佐伯市で毎年9月に行われる祭りが「五丁の市」。1200年以上の歴史を持つこの祭りの目玉は、ジョーヤラ船の巡航で、主役は、船の上で威勢のいい踊りを披露する地元の中학생たちです。

実は20年以上前、地元の青年団が解散し、担い手不足が問題になりました。そこで、一役かったのが子ども達で、地元の彦陽中学校の生徒が、船の上で踊りを披露する大役を任されるようになったのです。参加する中学生は「小さい時からこのジョーヤラを見ていて、いつか参加してみたいと思っていたから参加しました」、「きつい面もあるけど、地域に貢献するという意味ではいいと思います」と言い、本番の数日前から櫓をこぐ仕草を表しているという踊りを繰り返し練習します。

そして、本番当日、色鮮やかな大漁旗が飾られた船が出港。船の上では、タスキをかけた子ども達が練習の成果を披露しました。

巡航の最中に掛けられる「ジョーヤラ、ジョーヤラ」という掛け声は、豊漁を願う「漁あれ、漁あれ」が変わったものと言われているそうです。そんなこの祭りは、掛け声の意味の通り、海の恵みに感謝し豊漁を祈願します。さらに、祭りを通して、子ども達が地域の伝統や海の大切さを改めて感じる機会にもなっています。立派に大役を果たした中学生は「今日はとても楽しかったです。自分も海にごみとかを捨てないように、キレイにしていきたいと思いました」と、有意義な経験になったようです。そして、五丁の市の実行委員長・江藤茂さんは「子ども達は随分がんばってよくやったと思います。本当にありがたいことです。こういう伝統芸能を通じて、故郷に誇りを持ってもらいたい」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin大分県」
協力：株式会社テレビ大分

No.	26	エリア	福島県	投稿日	2020.1.20
カテゴリー	復興	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1036		



大震災で被災の漁港が全面復旧～福島県 富岡漁港・釣り船業男性の新たな出発～

東日本大震災から8年余りが経った2019年7月26日、福島県の富岡漁港が復旧工事を終えて再開し、帰港式が行われました。この帰港式は、福島県にとって記念すべきもので、これで福島県内の漁港全てが利用可能になったのです。

釣り船業を営む石井宏和さん（42歳）は、そんな富岡漁港の再開を待ちわびていた1人です。

富岡町出身で祖父の代から釣り船業を営む石井さんは、もともと高校生の頃から家業を継ぐ意志が強く、父親の手伝いを続けていたそうです。そして、26歳の時に、船舶技術・釣果スポットへの誘導ともに熟練度が十分ということで、父親から家業と釣り船「長栄丸」を受け継ぎました。富岡漁港での釣り船業は順調で、数年後には、娘の柑那ちゃんも産まれました。

ところが、富岡漁港は東日本大震災で津波被害に遭い、使用できなくなっていました。その結果、石井さんは受け継いだ釣り船業を失い、さらに、津波は柑那ちゃんまでも奪っていきました。「やっぱりやしいですね。それは当たり前です」と石井さんは語っています。

しかし、石井さんは「福島の水のために何か出来ることを」との想いで奮闘します。震災から2年後には、福島沖での試験的な漁のための調査にも自らの船を出し、サポートしてきました。とはいえ、複雑な想いを抱えてもいました。「町が今後どうなるのか、そこで生活が成り立つのか、ましてやそこで仕事が成り立つのか不安がないわけではない」と、当時の石井さんは語っています。ただ、そんな思いを抱えながらも、震災の後も福島の水と向き合ってきたのです。その理由は「この水で安心して水の仕事ができる環境にしておきたい」という想いからです。

その奮闘の結果、2017年からは、船を避難させていたいわき市の漁港を拠点に、釣り船の営業を再開することが出来ました。

そして、2019年の夏、遂に新しくなった富岡の港に、石井さんの船は戻ることが出来たのです。帰港式の日、震災後に産まれた3人の子どもを連れてきた石井さんは、長栄丸に大漁旗を掲げて富岡漁港へ戻ってきました。石井さんは「この漁港からやり続けるということが、福島の水の風評払拭にも繋がると思う。やり続けることによって、次の世代のために安心して水の仕事につける環境を作っておきたい」と語っています。

現在、石井さんは富岡漁港で震災前と同じように、釣り船業を営んでいます。「今日も、たくさんのお客さんが来てくれて凄く嬉しいし、福島の水を感じてもらえることは大変重要なことだと思う」と、富岡漁港で釣り船業が出来る喜びをかみしめています。今後は釣りを通じて、富岡町に人を呼びこみたいと意気込んでいるそうです。

石井さんが生まれ育った福島の水。その水の素晴らしさを知ってもらうため、今日も石井さんは釣り船業に精を出します。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinふくしま」
協力：株式会社福島中央テレビ

No.	27	エリア	全国	投稿日	2020.2.16
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1040		



横浜南養護学校の生徒たちが
水中ドローンを遠隔操作し水槽探索をしました

院内学級で遠隔“海体験”～横浜南養護学校の子も達が「水中ドローン×VR」の技術に大興奮！～

神奈川県立横浜南養護学校の生徒たちが、2019年12月4日に「水中ドローン×VR」技術を使った体験活動を行いました。その活動とは、横浜・八景島シーパラダイスにある700種類、12万点の生きものたちが生活する日本最大級の水族館「AQUA MUSEUM」の水槽探索です。これは、この水族館で2019年11月29日（金）から12月8日（日）まで開催されていた「Virtual Ocean Project」を利用した取り組みです。

Virtual Ocean Projectは、日本財団が行っている「海と日本プロジェクト」の一環で、多くの人に、海の問題を伝える、そして、海体験をしてもらうために行っています。その内容は、VRと水中ドローンによって、なんと水槽の中を泳いでいるかのような体験ができるというものです。普段は海洋調査などに利用されている専門的な水中ドローンを、カスタマイズして360度カメラを搭載、さらに、VR技術を組み合わせ、VR空間内からドローンを操作する仕組みとなっています。

そんなこの「水中ドローン×VR」は、なんと遠隔操作が可能なのです。そこで、生徒たちが、同校から水中ドローンを遠隔操作して水槽探索を体験しました。この取り組みは、Virtual Ocean Projectと共同して、関西学院大学と富士通が実施。関西学院大学 教育学部の教授・丹羽登さんは「もともとは遠隔教育をどのように進めるかということから始めた。その一環として、病気で入院している子ども達は外へ出ることが少ないので、いわゆる校外学習の延長としてバーチャルで体験してもらおうと考えた」と言います。

この日、体験したのは中学1年生たちで、「イワシの群れの中に入ったり、魚を近くで見れたりしてとても楽しかったです」と大興奮していました。丹羽教授は「これを見て、水族館に行きたいとか、海へ行きたいとか、自分たちの意欲に繋がってくれるといいなと思う」と話しています。

No.	28	エリア	全国	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	伝統文化	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1047		



灯台が進むべき未来を提案 灯台が進むべき未来を提案～地域の観光資源からマンガ・アニメ化まで「全国灯台文化価値創造フォーラム」～

実は今、灯台が危機的な状況にあるという。灯台を訪れる人は、1973年は約178万人だったが、2018年は70万人ほどと半分にまで減少。また、灯台の基数も、2003年のピークを境に減り続けている。海上保安庁の次長・上原淳さんは「航行の安全装置オンリーで灯台を定義してきたのが、減少の要因のひとつ」と語る。航海のための安全装置としての役割が終わりつつあるというのだ。

そんな中、2019年12月10日に開催されたのが、「全国灯台文化価値創造フォーラム」。これは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。灯台のある全国の自治体が集まり、地域資産として“灯台の利活用”を促進することが目的で、すでに行われている取り組みの学習や情報交換などが実施された。そのひとつが、「恋する灯台プロジェクト」。このプロジェクトは、一般社団法人日本ロマンチスト協会と日本財団が共同で行っているもので、日本全国の灯台から、ロマンスの聖地にふさわしい灯台を「恋する灯台」として、灯台がある地域を「恋する灯台のまち」として認定し、地域の観光資源として灯台の価値を見直すというもの。フォーラムでは、「恋する灯台」の仕掛け花火を打ち上げるなど、様々な取り組みを行っている新潟県の「能生港灯台」など、3カ所が紹介された。

さらに、フォーラムでは、今後、灯台の利活用として、エンタメの分野での取り組みも行われることが発表された。それが、「灯台×マンガ・アニメ」。これは、スタジオジブリ・宮崎駿監督に師事した糸曾賢志さんが企画中のプロジェクト。日本全国にある灯台をイケメンに擬人化し、ストーリーをつくる。そして、そのマンガ・アニメを通して、灯台に触れてもらおうというもの。現在、LINEマンガでの実施に向けて進めているという。糸曾さんは「灯台文化の価値創造をマンガやデジタルアートから応援し、ムーブメントを起こしていきたい」と語っている。

そして、日本財団も新たなプロジェクトを実施すると発表。それが、「Blue Coastline Japan」（※発表時点での仮名称）。これは、ニーズの調査や政策提言、全国で行われている取り組みの集約など、灯台の利活用につながる新しいプラットフォームを「海と日本プロジェクト」の中につくるというもの。日本財団の常務理事・海野光行さんは「ひとつのプラットフォームをつくり連携して盛り上げていく、また、灯台を通じて紡ぎだされる海と人との関わりを紐解いて、海洋体験のコンテンツとして磨き上げていくことが大事だと思う」と語った。

No.	29	エリア	石川県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1057		



海を守る心を育てる里海科～アクティブラーニングで海洋教育を行う石川県の小木小学校～

石川県能登町的小木小学校では、全国で唯一だという海洋教育・里海科が行われています。小木小学校は、2015年から文部科学省の教育課程特例校に指定されていて、里海科は小学校5・6年生において、年間35時間のカリキュラムを編成し、里海の生き物や海洋環境、漁業や水産業など海に関わる様々な学習を実施するというものです。

2019年10月11日、5年生は、春から調べてきた自分達の街に捨てられたごみについて、作成した「小木のごみマップ」をもとに学習しました。最もごみが多かったのは、東町だったそうです。さらに、海洋ごみの8割が街から流れていることも学びました。そして、その調査結果から児童たちは「ごみを海に捨てない。見つけたら拾う」、「ごみ問題のことをCMなどで伝える」など、それぞれが思うごみ問題の解決方法を考え、発表しました。木村優風先生は「最初、地域のごみ問題は子ども達の意識には全く無かった。しかし、里海科を進めていくにつれて、身近な問題から課題を見つけて、普段の生活でも『ごみを見つけたら拾おう』という意識が芽生えた」と言います。

そんな海の学びを能登町の小中学校に広げるため、小木小学校は能登町の教育者を対象に、2019年8月下旬、海洋教育研修会も開催しました。その研修会では、海洋ごみの分別を行い、能登里海教育研究所の主任研究員・木下靖子さんは「ひも類も素材はプラスチックになって、ペットボトルも集めると、8割ぐらいがプラスチックのごみ。ビニール類が自然に分解されるには、千年近くかかる」と話しました。さらに、小木小学校の川崎祥二先生は「海洋教育は、自分で課題を見つけて解決していく『生きる力を育てる』ために、身近な海という教材でその力をつけるのが狙い」と、小木小学校の海洋教育についての説明も行いました。

そして、海洋教育は、実際に子ども達へ大きな影響を与えているようです。児童たちは里海科の授業について「ごみを減らすために、ポスターを描いて掲示するとか小さなことだけど出来ることはあると思う」、「イベントだと誰かが興味を持ってくれると思うから、イベントをみんなで決めてやってみたい」と話しているように、里海科での海洋教育から自分で課題を見つけて解決していく力が養われているのです。

こうした学びが、海を守る心を育て、取り組みにも繋がっていくのではないのでしょうか。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」
協力：石川テレビ放送株式会社

No.	30	エリア	福岡県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1059		



密着！最新水族館のお仕事～地元・福岡県民も知らない大切な取り組みとは？～

「マリンワールド海の中道」は、福岡県福岡市東区にある水族館です。2017年には、人工波が起こる玄界灘水槽や桜島の溶岩石を入れた鹿児島錦江湾の水槽などの「九州各地の海」をテーマにリニューアルされました。

そんな水族館の目玉展示のひとつ「外洋大水槽」で、水族館の仕事に打ち込んでいる女性があります。それが、外洋大水槽の担当で入社3年目の明石夏澄さんです。外洋大水槽での仕事のひとつが、ダイバーウォッチングというショーです。これは、明石さんが水中カメラを持って水槽に潜り、およそ15分間、実況・解説をするというものです。「潜ってカメラで映して、しかもそれを紹介するという任務があるので、出来るだけ分かりやすく伝えられるように心がけている」と明石さんは語ります。来館者が楽しみながら海の生き物について学ぶことが出来る、水族館の仕事は、そんな工夫が散りばめられているのです。例えば、ダイバーウォッチ以外にも、2万匹ものイワシの大移動では、実は進行に合わせて、明石さんが秒単位でエサを投入しています。大水槽の上で、配管にエサを入れていきます。すると、大水槽の中には色んなところに配管の出口があり、そこから水と一緒にエサが出てきて、そこにイワシが集まるという仕組みとなっているのです。

また、九州にまつわるクラゲの展示コーナーでは、水槽の中に小さな粒粒がありますが、これはエサの生きたプランクトンです。そのプランクトンは、展示コーナーのバックヤードで孵化から行っているのです。水族館にいる生き物たちをしっかりと生育し、元気な姿で見せることも、明石さんの大事な仕事なのです。そんな水族館での仕事に就いたきっかけは「小学生の頃、淡水魚の図鑑を自分で買って、その図鑑を見ていた時にキレイだなと思い、そこからドンドン淡水魚の魅力に惹かれていつか今に至る」と明石さんは語っています。

そんな明石さんの水族館の仕事は、館内だけではなく、「水族館の外で、淡水魚の保全活動も担当している」と明石さんは話します。マリンワールド海の中道では、水族館の外で生息域外保全の活動にも取り組んでいます。この活動は、生息地ではなく、安全な場所に生き物を保護して、育て増やし、絶滅を回避するというものです。例えば、淡水魚のニッポンバラタナゴは、昔は福岡市内の田んぼや小川に普通に生息していましたが、絶滅が危惧されているため、国立海の中道海浜公園の一角にある池で、種の保全活動が行われています。それ以外にも、絶滅危惧種のサメ・シロワニの生息については、東京・小笠原諸島で調査・研究も実施し、世界的にも評価されています。明石さんは「絶滅危惧種という言葉は知っていると思うが、その中にどういった生き物が含まれているのかを、このマリンワールドで知って欲しい」と語っています。

そんな明石さんは、福岡県で絶滅危惧種に指定されているメダカとドジョウの生息域外保全活動にも取り組んでいます。それぞれ魚体のDNA鑑定などの研究は終了していて、メダカは2019年11月に放流、ドジョウは2020年の春に放流する予定です。明石さんは「担当以外の魚達についても、皆さんに魅力を伝えながら、これからも頑張っていきたいと思う」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinふくおか」
協力：RKB毎日放送株式会社

No.	31	エリア	宮崎県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1061		



サンゴの世界的権威が新発見～宮崎県・日南海岸の海中に広がる世界でたった一つの豊かな森～サンゴの世界的権威が新発見

宮崎県の日南海岸国定公園。
この公園の大島周辺には、100種類以上のサンゴが生息している。

そんな海を訪れたのは、イタリア・ミラノにあるピッコカ大学のフランチャスカ・ベンゾーニ教授。サンゴの分類を専門とする世界的権威の研究者で、今回、琉球大学の招待を受け、日本のサンゴの調査のため初来日した。大島周辺の海に潜ったベンゾーニ教授は「本当に特別。興味深いサンゴばかり」と語った。

日南海岸は、サンゴの生息地としてはかなり北に位置する。調査の結果、この周辺の海には「ハードコーラル（硬いサンゴ）」という太平洋の熱帯のサンゴと、「ソフトコーラル（柔らかいサンゴ）」というこの地域特有のサンゴが共生していることが判明した。地元のダイバー・福田道喜さんは「ここにしかないものがあるのを僕らも知らないし、南でもない北でもないという海の世界が、ここにあるというだけでも今回勉強させてもらった」と話す。そして、ベンゾーニ教授は「この海を守るために、人々に出来る限りのことをして欲しいと思う。ここは日本の国定公園でもあるし、世界的にも類を見ない素晴らしい海だから」と語っている。

しかし、そんな貴重な大島周辺のサンゴだが、近年は、サンゴが死滅する原因不明の感染症が発生。また、サンゴを食べるオニヒトデによる被害もあって、その危機が心配されている。そのため、サンゴを守るための様々な活動や、行政や大学、地元ダイバーが連携して、子ども達を対象にしたサンゴの学習会も開催している。

世界的にも貴重な大島周辺のサンゴを次世代に引き継ぐため、様々な取り組みが続けられていく。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinみやざき」
協力：株式会社宮崎放送

No.	32	エリア	熊本県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1063		



官民一体で漂流ごみ回収大作戦～熊本県天草市牛深町～

マダイやブリなどの養殖が盛んな熊本県の牛深地域。しかし、流木などの漂流ごみが養殖イカダの網を傷めたり、船のスクルーを壊したりしている。天草市牛深地区海域環境保全協議会の会長・平山千一さん（養殖業）は、「（流木などの漂流ごみは）漁業者にとっては厄介物。だから誰かが回収しないと常に流れている」と語る。

そこで、牛深町では、海中の漂流ごみを回収する活動が行われている。回収しているのは、官民一体の組織「天草市牛深地区海域環境保全協議会」。もともとは、養殖業者が中心となって、海の環境を守る組織をつくり、ごみの回収を始めた。2012年から定期的に続け、その後、国や自治体の協力を得て海洋環境整備船「海煌」との連携も開始。この協力作業の結果、漂流ごみの処理量は2015年からの1年間で8トンも減少した。平山会長は「海の環境を守っていくことが私たちの使命だと思う」と話す。

豊富な海の幸を生み出す牛深の海を守るため、官民一体となった取り組みは続く。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinくまもと」
協力：熊本朝日放送株式会社

No.	33	エリア	岩手県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1065		



高校生が海ごみ問題を発信～岩手県立宮古水産高校が初の海洋ごみ展示で啓蒙活動～

岩手県立宮古水産高校の海洋技術科が、海や川に漂着したプラスチックごみの調査を行っています。この高校は1895年創立で、水産高校として日本有数の歴史を誇ります。プラスチックごみの調査は2018年からで、黒澤長教諭が、ある海のへの気づきから始めたそうです。「海を見たらクラゲのようなものが浮いていて、それをよく調べてみたらナイロン袋だった。このまま放っておいていいのかなと思って」と黒澤教諭は話します。

調査で特に着目しているのが、大きさが5mm以下のマイクロプラスチックです。マイクロプラスチックは、世界中で問題視されていて、生物が体内に取り込むこともあることから生態系への影響が懸念されています。調査方法は、プランクトンをとるためのネットで海面と海底付近から採取した海水をビンにつめ、そして、顕微鏡を使い、プラスチックごみを探します。宮古市神林地区で2019年6月に行った調査では、空のペットボトルやマイクロプラスチックを発見しました。これまで17カ所の調査地点のうち、7カ所でマイクロプラスチックが検出されたと言います。さらに、マイクロプラスチックだけでなく、海岸に漂着した大きなプラスチックも数や種類を調べて仕分けしています。海洋技術科の佐々木伴豊くんは「魚とか海が汚くなったりしてダメになってしまうので、今から対策などしていきたい」と話しています。

そんな高校生たちが始めたプラスチックごみ調査の反響は大きく、岩手県の水産科学館では、初の展示会も開かれました。館長の伊東隆司さんは「私たち、それから市民が知らないことが出てきたことにビックリしている」と語っています。

水産技術科では、今後も調査は続け、さらに、調査結果を広めてもいくそうです。

高校生たちの行動が、海を守る大きな取り組みのキッカケとなる日が来るかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin岩手」
協力：株式会社IBC岩手放送

No.	34	エリア	山口県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	伝統文化	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1067		



見直される陶器のタコツボ～山口県で伝統を守り、土に帰るタコツボをつくり続けている男性～

山口県下松市では、タコの産卵期に合わせて毎年産卵用のタコツボを仕掛けています。このタコツボは、産卵期のタコの卵を保護するためのもので、2019年は2000個を産卵場所に放流しました。放流用のタコツボはロープをつけず、数年で土に戻る陶器製を使用しています。プラスチック製だと不法投棄となるためです。「土のものを使って、環境に優しいタコ壺ができればなと思ってやっている」と話すのが、陶器製のタコツボをつくらしている久野公寛さんです。

防府市末田にある登り窯で、久野さんはタコツボをつくらしています。この窯は、3年前に市の文化財に指定された伝統の窯です。もともと末田地区では、大正時代に土管づくりが盛んとなり、その技術を応用してタコツボをつくらしていました。しかし、軽くて耐久性に優れたプラスチック製が主流となると、陶器のタコツボは廃れることに。その結果、この窯も閉鎖される予定でした。久野さんがタコツボづくりを始めたキッカケは、この登り窯でした。久野さんは「登り窯を始めて見た時に、この窯がなくなっちゃいけないなと、なくなせたくないなと思ったのがキッカケ。自分がいなくなっても残るのがつくりたいなという思いがずっとあった」と言います。もともと陶芸の世界とは無縁だった久野さんは、この窯が閉鎖されることを知り、陶芸の世界に足を踏み入れました。そして、2015年から先代のもとでタコツボづくりを始め、2018年に独り立ちしました。

そんなタコツボづくりは、元になる筒状の粘土を使用します。そして、専用のろくろで形をつくらしていきます。「粘土の硬さとか中に凸凹があるが、凸凹に引っ掛からないようにならしていく感じ」と、久野さんは形をつくる際のコツを語っています。タコツボは手伝ってくれている母親の尚子さんと共に、1日200個ほどつくらしています。形をつくら後は、窯入れです。登り窯を1,200度ほどの温度にして焼き上げます。そんな窯入れは、年に3回から4回で、1度におよそ5,000個のタコツボを焼き上げます。久野さんは「一気にたくさん焼くが、同じ窯で同じ土で同じつくり方で焼いても、色が違うなど、1個も同じものがないので楽しい」と語っています。

そんな久野さんのタコツボのほとんどは放流用ですが、厚みや入口の形状など、注文に応じて、タコ漁のツボも手掛けています。その久野さんがつくれたタコツボで漁をしているのが、下関市の小林直樹さんです。「伝統を守って、2つとして同じものがないツボをこれからも頑張ってくださいって欲しい」と、小林さんは久野さんにエールを送っています。

ただ、全国でタコの漁獲量は減少しています（農林水産者の統計データを参考）。そのため、タコの魚礁づくりとも言えるタコツボの放流事業が各地で行われていて、今、陶器製のタコツボが見直されてきています。そんな昔ながらのタコツボづくりには、久野さんのものづくりに対するこだわりが込められているのです。「タコツボ使いやすいよとか言ってくれたり、このタコツボが良いと漁師さんが言ってくれるので嬉しい。良いタコツボだとずっと言ってもらえるように、頑張っていきたいと思う」と、今後の抱負を語る久野さんは、今日もタコツボづくりに精を出しています。

No.	35	エリア	兵庫県	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1069		



導き出した海ごみ対策の提言～海ごみ対策に取り組む神戸商業が考えたこと～導き出した海ごみ対策の提言

兵庫県にある県立神戸商業高校・理科研究部は、海洋ごみ問題への取り組みで多くの表彰をされています。そんな理科研究部の活動の発案者は、顧問の石川正樹先生でした。「もともと専門分野は生物だが、海に行ったら生き物よりもごみの方が目についた。ペットボトルなどのごみはどこから来たんだろうと疑問に思い、2013年から部員と一緒に調べ出した」と言います。

2019年10月、この日に理科研究部が取り組んでいたのは、マイクロプラスチックを大きさや色によって分別する調査と、近くの海岸で回収してきたペットボトルの漂流先の調査です。こうした理科研究部の活動のきっかけをつくったのは石川先生ですが、今では「活動を始めた頃より生徒が成長している。以前は私がつくった資料やポスターを生徒が発表していたが、今は生徒が自主的につくって二人三脚で活動を行っている」と石川先生は目を細めます。

その成果のひとつが、外国製のペットボトルの漂流ルートの割り出しです。学校の近くにある西舞子海岸などに漂着する海洋ごみを回収し、外国製のペットボトルの表記データから漂流ルートを割り出しました。その結果、海外からの海洋ごみは、黒潮によって運ばれて豊後水道と紀伊水道から瀬戸内海に流入、中国東北部と韓国製の海洋ごみは、最初に南へ運ばれ黒潮に乗り北上していることが判明しました。この調査は、環境大臣賞や文部科学大臣賞などを受賞しています。生徒は「入部する前は、ごみ問題について知らなくて、入ってみてから知った。環境について考えられるようになったのは、いいきっかけになったと思う」と言うように、理科研究部の活動を通して、色々なことを新たに学習しているようです。

そんな理科研究部は、今後、機会があれば西日本だけではなく、東日本の調査も行っていきたいそうです。「6年ほど同じ場所で調査しているが、ペットボトルの数が年々増えている。ほんとうに増えているのならばこれは危ないと思う。捨てないこと大事だが、拾うことも大事。今、環境への意識が高まっているので、もっと高めてもらって、気になったら拾ってくれる人が増えたらごみも減ると思う」と石川先生は語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」
協力：株式会社サンテレビジョン

No.	36	エリア	全国	投稿日	2020.2.22
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1044		



ポイ捨て 別の要因が判明～“モラルの問題” だけではなかった陸から川へのごみが流れ出る メカニズム～

日本財団と日本コカ・コーラ株式会社が、「陸域から河川への廃棄物流出メカニズムの共同調査」に関する報告会を2月21日に開催した。これは、ごみの総量把握の調査ではなく、陸から川へと流れ出るごみのメカニズムについて調査・分析した結果を発表したものだ。

近年、世界的に問題となっている海洋ごみ。その7～8割は陸由来であり、多くは河川をつたってくると言われている。しかし、そのごみがどのようにして発生するのかは明らかになっていないことも多いという。そこで、「CHANGE FOR THE BLUE」などで海洋ごみ削減を推進している日本財団と、「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」を目指し、ペットボトルをはじめとするプラスチック資源の循環利用を促進している日本コカ・コーラ株式会社が、ごみが川に流出するメカニズムについての調査・分析を、2019年から開始した。調査は、東京都・神奈川県、富山県、岡山県、福岡県の4エリアで実施され、250～300人が参加。さらに、一般的な調査スポットは河川の本流だけ対象となることが多いが、今回の調査は、人々の生活に密着している支流や用水路にまで及んだ。例えば、東京都と神奈川県を流れる境川の水域では、122.5kmにも渡って調査を行ったという。

その結果、川のごみの発生原因は、大きく分けて「投棄・ポイ捨て系」と「漏洩系」の2つだったという。特に「投棄・ポイ捨て系」では、“モラルの問題”だけではないことが判明。日本財団 海洋事業部のシニアオフィサー・塩入同さんは「生活が困窮している人は、有料ごみ袋制度の場合、買わないとごみが捨てられず、家にたまってしまう。その結果、家の近くのごみ箱に置いてきてしまったり、川に捨てられてしまったりする。また、時間が不規則な人などは、どうしてもごみ出しの時間に出すことができず、毎日ごみがたまって仕方がないので、ごみ集積場の近くに置いておくと、気づいたらカラスにつつかれて、ごみがあふれてしまうことがある」と発表。社会的な問題や生活スタイルなども要因で発生していることが明らかになったのだ。

そこで、今後のごみ対策として、日本財団は、廃棄物処理法といった制度に対して規制緩和などの働きかけ、自治体や企業との連携、海と日本プロジェクトを通じた啓発活動といった取り組みを行っていくという。また、日本コカ・コーラ株式会社は、自動販売機の横にある空容器回収ボックスからの漏洩対策、さらなる調査などに取り組んでいくという。日本コカ・コーラ株式会社 技術本部 QSE 環境サステナビリティ部長・柴田充さんは「ごみ問題は、モラルのひと言ではもはや解決しない。現状の可視化をして、優先順位をつけて、アクションを取っていきたい」と語った。そして、日本財団の常務理事・海野光行さんは「海洋ごみ対策は、オールジャパンで行っていかねばならない。例えば、企業の皆さんは、自分達の製品がどう風処理されているのかまで踏まえた上でのモノづくりというのを本格的にやっていくべき。そして、日本財団としては枠組みをつくり上げることが大事で、その枠組みに企業の皆さんにも参画してもらって、全体でごみ対策に取り組んでいくことが必要だと思う」と話している。

No.	37	エリア	新潟県	投稿日	2020.2.25
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1072		



サンドライダーは大きなタイヤにより
ビーチを簡単に移動でき

障害のある人へ海体験を提供～新潟県鯨波の旅館経営者が提案する誰もが楽しめるビーチ～

新潟県の鯨波海水浴場は、かつて多くの人で賑わった日本海側初の海水浴場です。しかし、「70軒ぐらい宿泊に関わる事業があったが、今は数えるほどになっている」と、小竹屋旅館の代表でオーサムビーチアーキテクトの柝堀耕一さんは語ります。

そこで、柝堀さんは、生まれ育った海を盛り上げるべく、海のサイダー「鯨泉」を開発・販売したり、浜辺のシーサイドBBQテラスをつくりたり、さらに、近年では、秋の海を楽しむ「ビーチピクニック」を開催するなど、旅館経営の傍ら、鯨波の海にある新たな価値を見つけ、これまでになかった様々なサービスをつくり出しています。そのキッカケは「大人になって帰ってきて、見たりとか遊んだりした結果、この場所が持っている色々な価値にだんだん気づいてきた」からだと言います。

そんな中、2019年から始めた新サービスが、サンドライダーの導入です。これは大きなタイヤによりビーチを簡単に移動でき、さらに、そのタイヤが浮き輪の役割をすることで、海に浮くことができます。そのため、砂浜からそのまま海に入れるビーチ用の車椅子となっているのです。「障害のある人がビーチで過ごしたり楽しんだりする価値は、健常者と違うところにあるのではないかと。そういう風に思ったのがサンドライダーを導入した最初のキッカケ」と柝堀さんは言います。実際に体験した子どもは「サンドライダーだと海とも入れるから、すごく楽しかった」と語っています。柝堀さんは「進行性の病気は、子どもの頃に出来たことがだんだん出来なくなっていく。サンドライダーを体験した家族は、車椅子に乗っている子どもと一緒に海に入れるなんて夢にも思っていなかったと喜んでくれている」とサンドライダーの成果を話しています。

今後について柝堀さんは、障害のある人も健常者も誰でも楽しめるビーチを「ビーチウェルネス」という言葉で表現し、形にしようとしています。「『誰でもそれぞれの人生を豊かにできる』ビーチにはそういう力があると思っているので、多様な楽しみ方をしてもらえるといいなと思っている」と柝堀さんは語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin新潟」
協力：株式会社新潟放送

No.	38	エリア	山形県	投稿日	2020.2.25
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1078		



価格の提示は1度きり
そのため どのセリも一発勝負

値があつという間に決まるセリ～山形県鼠ヶ関漁港の一風変わった「札読み」～

山形県の鼠ヶ関漁港。

ここは、年間180トン以上の水揚量を誇り、全国有数のエビの産地として知られている。

そんなこの漁港の市場には、全国でも珍しいセリ「札読み」が今も残っている。JFやまがた念珠関支所・支所長代理の佐藤洋二さんは「札読みやっているのは新潟県山北町とここだけ。私の知る限り、70年以上は続いている」と語る。

一般的なセリは、1つの箱を対象に価格を決めていく。しかし、「札読み」は一度に7つの箱のセリを実施。「1から7番までの魚に対して、黒板みたいな感じの“札”に値段を書いて渡す。そして、それをセリ人はそれを読むというのが札読みのセリの流れ」と佐藤さんは話す。価格の提示は1度きり。そのため、どのセリも一発勝負。佐藤さんは「いちばん早く鮮度のいいまま仲買人に魚を売る方法としては、この札読みが一番早いのかなと思う」と語る。このように、7つの箱を一度に、さらに、一発限りで素早くセリを行うことで、鮮度を保ったまま素早く魚を私達に届けることができるのだ。

そんな伝統の札読みを2019年から始めたのが、JFやまがた念珠関支所の田宮海輝さん。「間違いなくリズムよく言えるかが、札読みのセリ人としての目標。少しでも代理に使づけるように頑張りたいと思う」と語っているように、田宮さんは一人前のセリ人となるため日々努力している。

伝統のセリは若い世代に受け継がれていっている。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin山形」

協力：株式会社テレビユー山形

No.	39	エリア	北海道	投稿日	2020.2.25
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1080		



海の生態系調査が劇的進化！？～北海道・沿岸調査用ドローンが新登場～

海に住む生き物の生態を調べるには、海洋環境の科学的な分析が欠かせません。その分析のための調査の多くは、船を借りて行っています。ただ、船での調査は、大型の機器を積み込んだり、調査用の水を大量に汲み取ることができる反面、船を借りる費用がかさみます。また、水深の浅い場所では座礁の危険もあります。そのため、沿岸域の調査はあまり進んでいないのが実態です。しかし、海の生き物は沿岸域で成長するため、その生態にはまだ不明な点が多くあります。

そこで、海洋環境の調査で、今、期待されているのが、ドローンです。東海大学 生物学部 海洋生物科学科の野坂裕一助教は、沿岸域での調査の課題を解決しようとドローンの開発に取り組んでいます。このドローンでは、水深、水温、照度、そして実際に採水が可能です。さらに、船と違って機動力が高いため短時間に広範囲を調査できる、岩場や崖の下など人が入り込めない場所を調査できると言います。その上、一度つくってしまえば、船を借りる費用がかからないため、船での調査に比べて約4割もコストがカットできるそうです。忍路漁港での試験飛行では、わずか2分足らずと、船と比べると圧倒的に早い時間で約180mlの海水を汲み取ることができました。

しかし、まだ試験段階で、重量のある観測機器を搭載できないなどの欠点もあります。そのため、今後について野坂さんは「できる限り機体を軽くすること。20分から30分飛べるようになると、1回でいくつもの観測点で水を採取して帰って来るシステムを構築できるので、まずは軽量化を優先したい」と語っています。そして、2020年には実際に観測を行い、沿岸環境調査での実績を作りたいと言います。

ドローンによって謎に包まれていた沿岸域の分析が、飛躍的に進むかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」

協力：北海道放送株式会社

No.	40	エリア	神奈川県	投稿日	2020.2.28
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1082		



世界基準の一流ビーチ由比ガ浜～神奈川県・地域住民が整備した海離れの青い救世主！～

神奈川県の由比ガ浜海水浴場。

ここには、見慣れない旗が掲げられています。これは、国際環境認証ブルーフラッグです。ブルーフラッグは、国際団体「FEE」が運営し、「水質」や「ビーチ利用者への環境教育活動」といった33の厳しい基準をクリアした一流のビーチなどに与えられるいわば「海業界のミシュラン」です。現在、日本では、わずか4カ所だけが認定を受けていて、由比ガ浜は2016年にアジアで初めて獲得しました。NPO法人 湘南ビジョン研究所の理事長・片山清宏さんは「由比ガ浜がブルーフラッグを承認されたということは、世界基準でのキレイな海、安全な海、誰でも利用できる海、これが客観的に証明されたという成果だと思う」と語っています。

ただ、その一方で、深刻な海離れも起こっています。神奈川県の海水浴客は、年々減少傾向で、2012年は685万人だったのが、2018年は半分ほどの375万人になっています（神奈川県の各市町村から報告された数を集計）。また、日本財団の調査によると、海に親しみを感じていない若者は約4割にも及んでいます。その原因について、「海が汚いから」、「海水浴場で飲酒とかが出来なくなったり、規制が厳しくなっている」、「津波とかもあったので、それで海が怖くなっているのかなと思う」などと、海水浴客は様々な要因があると感じているようです。

そんな中、ブルーフラッグをアピールすることが、海離れを防ぎ、さらに、より良い街づくりにも繋がると言います。片山さんは「海離れが起こっているという現状で、ブルーフラッグの取り組みを知り、海に関わるきっかけが増え、またみんなが海に来てくれて海の良さや楽しさを知ってもらえれば、持続可能な街づくりに繋がっていくのかなと思う」と語っています。

そこで、毎年審査のあるブルーフラッグを継続して取得するため、由比ガ浜では、「バリアフリー対応」や「水質調査」、「指定洗剤の使用」といった様々な取り組みを行っています。さらに、由比ガ浜独自の取り組みもあると言います。由比ガ浜茶亭組合の組合長・増田元秀さんは「独自の取り組みは、恐らく車椅子の方でも散策できるユニバーサルボードウォーク。他のビーチでも一部ユニバーサル化しているところはあるかもしれないが、由比ガ浜は海岸800mにボードウォークを設置しているので、車椅子の方だけではなく、健常者の方も歩きやすい」と話します。これらの取り組みの結果、由比ガ浜はブルーフラッグを4年連続で取得し続けています。

さらに、2019年12月には、国内4都市のブルーフラッグビーチの取得事例の発表など、「ブルーフラッグ」をテーマにした日本初のシンポジウム「BLUE FLAG Japan サミット 2019 in 鎌倉～海を守り、未来をつくる～」を開催しました。このシンポジウムは継続開催されるそうで、2020年は高浜町で開催予定です。そして、今後について、片山さんは「このブルーフラッグを日本全国に広げていきたいと思っている。この由比ガ浜で、海を守る活動のモデルをつくって、それを日本全国に知ってもらって、日本の海をより良くしていくことに繋がればなと思う」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinかながわ」
協力：株式会社テレビ神奈川

No.	41	エリア	広島県	投稿日	2020.2.28
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1087		



邪魔な木を魚の楽園に再利用～『イカの宝庫』広島県・田島発の産卵床づくり～

瀬戸内海で獲れる魚貝類は「少量多種」と言われ、様々な種類の魚を楽しめるのが特徴です。その獲れる魚貝類のひとつが、イカです。

しかし、広島県ではイカの漁獲量が減少していると言います。カネト水産の佐藤弘常さんは「広島県の田島はイカがホントによく獲れた漁場で、ダンゴイカ・ハリイカ・モンゴウイカとか、昔は1隻で100kgとか150kgとか獲れていた。でも、今は結構減ってきている」と語っています。実際に、広島県のイカ類の漁獲量は、詳しいことは解明されていませんが、2012年以降、年々減少していて、近年では およそ3分の1以下になりました。

そんな中、イカなどが産卵しやすい海を目指して、漁協の青年部が活動を開始。2015年頃から木を海底に沈め、産卵床づくりを試験的に行っています。田島漁協青年部の部長・兼田数馬さんは「最初は1人で20本ぐらい沈めてみた」と言います。沈めている木は、田島で「バベ」と呼ばれているものです。バベとはウバメガシというブナ科の木のこと、ドングリの実をつけ、木は備長炭の材料になっています。そんなバベの産卵床があるのは深さ15mの海底で、3mほどの高さのバベを重りで固定し、30本ほど設置しています。

バベを産卵床づくりに使ったキッカケは「木にこだわりはなくて、島全体に多い木。ただ、道の方に出てきたりかして邪魔になっていることもあって。そこで、邪魔になっていた木を切っていたら、近所の方が『ウチのバベも切っておいてくれ』みたいなの」と、兼田さんは話しています。邪魔なものを再利用してみたという単純な理由からだったそうです。

しかし、効果が出ていて、4月頃に設置したバベにモンゴウイカが卵を産み、9月頃には孵化しています。取材中にもなんと1匹の赤ちゃんが孵化しました。ちなみに、モンゴウイカは、身を守るために体の模様を変える擬態も、赤ちゃんの頃から出ていました。

そんな手に入りやすいバベによる産卵床づくりは、他の効果も生み出しているそう。兼田さんは「通常、イカはアマモとかに卵を産んでいるが、アマモを育てるのは結構難しい」と言います。一般的に魚介類の住処や産卵場所は、「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場です。しかし、そんなアマモ場は、アマモを食べてしまう魚が増えたことなどから減少していると言います。また、環境要因を究明しないまま増やそうとしても回復しないなどの事情から、アマモ場は簡単には増やせないとされています。そのため、バベをアマモ場の代わりに再利用しているのです。

実際に、産卵しているのはイカだけではなく、2019年の6月の経過観察の際には、アカニシ貝の卵も付着していました。

しかし、実験段階の今は、イカの卵の孵化が終わる9月頃には、バベの産卵床を回収しなければなりません。ただ、今後、産卵床の有効性が認められ、海底に設置し続けられるようになると、木を食べるプランクトンやイカを食べる魚が棲息するなど、食物連鎖が繰り広げられる豊かな海になるのではないかと期待されています。そのため、「今、バベの産卵床づくりは、田島の青年部と福山の青年部全体で行っている活動。これを組合単位で増やして、木の本数をどんどん増やしていけたらな」と、兼田さんは今後の展望を語っています。そして、現在、この試みは田島の他、横島、鞆の浦にも拡大し、試されています。

バベの再利用は、今後、豊かな海を創り出す画期的な海のゆりかごになるかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin広島」

No.	42	エリア	鹿児島県	投稿日	2020.2.28
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1089		



絶品グルメは海のやっかい者～鹿児島・“桜島の火山灰”で地域の特産品に変えろ～

近年、鹿児島湾の始良市沿岸では、繁殖期の夏場になると、大群となったエイがエサを求めて押し寄せています。中でも、ナルトビエイは、もともとインド洋など南の海に多くいるエイですが、2009年ほど頃から、鹿児島湾に姿を見せるようになったと言います。その原因のひとつとして考えられるのが、地球温暖化による海水温の上昇です。実際に、鹿児島県水産技術開発センターの観測によると、鹿児島湾の海面付近の平均水温は、1980年からのここ35年間で、約0.5℃から1℃上昇しています。

そして、増加したエイによる被害のひとつが、アサリへの食害です。かつて、始良市の重富海岸には、たくさんのアサリが生息し、毎年、数万人の潮干狩り客でにぎわいました。しかし、平成に入り、アサリが激減してしまいました。増加したエイがアサリを食い荒らしているのが、原因のひとつとみられています。そのため、重富海岸では現在、潮干狩りが禁止されています。

さらに、被害は食害だけではないと言います。錦海漁協の組合長・梶健一さんは「網などの漁具自体が破られたりして被害が発生している」と嘆いています。エイは漁業用の網を破ることもあり、また、トゲには毒まであります。その上、水揚げ後、時間がたつと臭みが出るため、漁で取れてもほとんどが廃棄されています。

そこで、2018年の秋から、始良市特産品協会が、エイを水産資源として活用しようと取り組みを始めました。始良市特産品協会の会長・山崎司さんは「『始良市に來ればエイが食べられるよ』というのが、特産品協会の目的。みんながエイの存在を知ってくれば非常にありがたいなと思っている」と話しているように、新しい料理を開発し、特産品化につなげようと知恵を絞っているのです。

そこで、注目したのが、「灰干し」です。これは水分や臭みを抜くため、魚の身を桜島の火山灰で挟む干物の手法で、キビナゴやアジ、エビなどのほか、鶏肉などで用いられています。そんな灰干ししたエイの身を使い、特産品協会の趣旨に賛同した始良市の6つの飲食店が、新しいエイ料理を考案しました。試食会では、チリソースや南蛮漬、から揚げなどが登場し、試食した人からは「全然においとも無く、すごくおいしい」と好評でした。そして2019年10月には、鹿児島中央駅前で開催された物産展で、エイのから揚げを使ったトルティーヤが試験的に売り出されました。食べた人たちは「魚感がなくてすごくおいしい」、「油っぽくないのでヘルシー」、「おいしくてビックリした。普段は環境を意識することはないが、こういうのを食べる機会に考えられたので、すごくよかった」というように絶賛していました。こうしたエイを活用した料理は、2020年1月から始良市の小中学校の給食でも提供されました。さらに、今後は、始良市の飲食店などでの取り扱いを広げていきたいそうです。山崎会長は「私たちも新しい特産品としてエイが広がっていけばありがたいし、環境問題としてエイを捕獲できるということもいいなと思う」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin鹿児島」
協力：株式会社南日本放送

3 ヤフー記事掲載

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
1	2019.9.13	兵庫県	ライフ	海ゴミだらけだったウミガメのお腹
2	2019.9.17	全国	ライフ	海洋ごみを作らない・出さない！豊洲市場で日本初のえびフェス！
3	2019.9.20	兵庫県	ライフ	瀬戸内海三大船祭のひとつ兵庫県「坂越の船祭」
4	2019.9.22	全国	ライフ	迫る“スポGOMI甲子園 全国大会”！初の試みを生みの親が語る
5	2019.9.27	全国	ライフ	自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【前編】
6	2019.9.27	全国	ライフ	自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【後編】
7	2019.9.27	静岡県	ライフ	重さ65kgもの万灯を振るう静岡県川奈の伝統あるお祭り
8	2019.10.4	静岡県	ライフ	深刻な海のゴミ問題を表すミズウオの胃
9	2019.10.11	福井県	ライフ	福井県小浜市に春を告げる魚・イサザを取り戻すために奮闘する高校生
10	2019.10.18	京都府	ライフ	自分たちで遊び・学んで地元の海を次の世代へと繋ぐ「阿蘇海の日」
11	2019.10.19	全国	地域	スマートフォンでブリがさばける！？食から海を学ぶイベント
12	2019.10.23	全国	地域	国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【前編】
13	2019.10.23	全国	地域	国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【後編】
14	2019.10.25	ライフ	京都府	「海の祇園祭」と呼ばれ、300年以上も続く京都の伊根祭
15	2019.11.1	ライフ	香川県	チョイスー！の掛け声と共に神様を迎える香川県・住吉神社の夏祭り
16	2019.11.8	ライフ	香川県	うどん県民の宝・イリコを守る資源管理の取り組み
17	2019.11.13	地域	全国	子ども目覚める海のお仕事体験～約100人の子どもが体験した“海のお仕事”の集大成！海のお仕事図鑑～
18	2019.11.15	ライフ	秋田県	ユネスコ無形文化遺産にも登録されている秋田県の港町・土崎のお祭り
19	2019.11.22	ライフ	秋田県	秋田県の海にまつわる人達が憂う海洋汚染
20	2019.11.28	地域	全国	ジブリで学んだ糸曾監督の流儀～初の現状アニメ公開！糸曾賢志監督が“恩師・宮崎駿監督の教え”と“自然観”を語る～

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
21	2019.12.1	全国	地域	シーパラの水槽に擬似だいぶ～横浜・八景島シーパラダイスに期間限定の「水中ドローン×VR」の新アトラクションが登場！～
22	2020.1.20	徳島県	地域	海辺の生態系を壊す黄色い脅威～徳島県小松海岸に根付いた厄介者“ナルトサワギク”～
23	2020.1.26	石川県	地域	麦ストローが広げる脱プラの輪～1人の女性の海への思いから石川県小松市で生まれた大麦ストロー～
24	2020.1.26	大分県	地域	ジョーヤラ担う大分の中学生～古き良き海の祭りを継承し続ける大分県佐伯市の子ども達～
25	2020.2.4	岩手県	地域	海の保育園で育つホシガレイ～岩手県で減少する幻の高級魚を子ども達が放流～
26	2020.2.9	京都府	地域	こども探偵団が海ごみを調査～京都で子ども達が海洋ごみを調査！80袋のほとんどが生活ごみ～
27	2020.2.16	山梨県	地域	マイクロプラ汚染 山中でも進行～海なし県・山梨発 大学教授が取り組む海洋汚染への取り組み～
28	2020.2.16	全国	地域	院内学級で遠隔“海体験”～横浜南養護学校の子ども達が「水中ドローン×VR」の技術に大興奮！～
29	2020.2.22	全国	地域	ポイ捨て 別の要因が判明～“モラルの問題”だけではなかった陸から川へのごみが流れ出るメカニズム～
30	2020.2.24	福島県	地域	大震災で被災の漁港が全面復旧～福島県富岡漁港・釣り船業男性の新たな出発～
31	2020.3.2	全国	地域	灯台が進むべき未来を提案～地域の観光資源からマンガ・アニメ化まで「全国灯台文化価値創造フォーラム」～
32	2020.3.8	石川県	地域	海を守る心を育てる里海科～アクティブラーニングで海洋教育を行う石川県の小木小学校～

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
33	不明	全国	不明	東京大学と日本財団が連携 海洋ごみ対策について科学的に挑む一大プロジェクト
34	不明	全国	不明	原田環境相も江の島でごみ拾い！スタートした全国一斉清掃キャンペーン「海ごみゼロウィーク」
35	不明	全国	不明	世界中のコスプレイヤーが海洋ごみ問題を発信！東京タワーでごみ拾い
36	不明	全国	不明	声優・古谷徹も応援！コスプレイヤー協力のもと、新たな海洋ごみ対策が始まる
37	不明	全国	不明	「海ごみゼロ国際シンポジウム」開催。G20で機運が高まる海洋ごみ対策を世界へ発信
38	不明	全国	不明	「海に行きたい・行きたくない」は子どもの頃の体験が影響
39	不明	全国	不明	子どもの頃に海へ行くと将来結婚がしやすくなる！？親子が学んだ海とそなえ
40	不明	全国	不明	危険生物に離岸流。夏本番に向けて知っておくべき“海のそなえ”
41	不明	全国	不明	山の中で！？世界初！水中ドローンとVRを使ったワクワク海体験

No.	1	エリア	兵庫県	配信日	2019.9.13
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190913-00000129-socialinv-env		

自身のトロ!? 漁師が人の意見を受け入れ生まれたブランド魚

Yahoo! JAPAN

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

海ゴミだらけだったウミガメのお腹

2019/9/13(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」

兵庫県にある姫路市立水族館。

ここに展示されているのは、なんと海ゴミ。この水族館では、多くの人に海の現状を知ってもらうため、漂着物を展示するコーナーを設置している。

そんな海ゴミは、深刻な問題になっているという。姫路市立水族館の技術主任・竹

No.	2	エリア	全国	配信日	2019.9.17
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190917-00000157-socialinv-env		

大漁旗プレスレット、金華サバ、桃など東北の逸品を買って応援

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

海洋ごみを作らない・出さない！豊洲市場で日本初のエビフェス！

2019/9/17(火) 12:00配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

9月14日に豊洲市場で行われたのが、「エビフェス！海老の日祭り in 豊洲」。「海老の日祭り」は、“海老の消費最大級”と、“敬老の日に長寿の象徴である海老を食して日本を元気にする”ことをテーマとしたグルメイベント。2019年で6回目を迎えた今回は、日本初のイベント「エビフェス！」として開催されました。

No.	3	エリア	兵庫県	配信日	2019.9.20
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190920-00000130-socialinv-env		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

瀬戸内海三大船祭のひとつ兵庫県「坂越の船祭」

2019/9/20(金) 18:00配信




日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」

兵庫県・坂越で毎年10月に行われているのが、「坂越の船祭」。赤穂市の南に位置する坂越は、昔から港町として栄え、海が身近にある街。そんな坂越で行われるこのお祭りは、大避神社に祭られている御祭神・秦河勝が坂越に渡来した伝承を再現するお祭りとして始まったという。その歴史は古く、なんと300年以上前から行われてきた。その伝統と地域の特色が見られることなどから国の重要無形民俗文化財

No.	4	エリア	全国	配信日	2019.9.22
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190922-00000158-socialinv-env		

NHK フジテレビ ヤフー共同企画 犠牲者ゼロの情報配信とは

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

迫る“スポGOMI甲子園 全国大会”！初の試みを生みの親が語る

2019/9/22(日) 7:00配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

高校生がごみ拾いを競い合う大会「スポGOMI甲子園」。その県予選を勝ち抜いた代表による全国大会が、9月23日に行われます。

もともとスポGOMIは、2008年から開催されているイベント。チームで制限時間内に、力を合わせてごみを拾い、その質と量をポイントで競い合います。そんなスポ

No.	5	エリア	全国	配信日	2019.9.27
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190927-00000159-socialinv-env		

3.11企画 いま、わたしができること。

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【前編】

2019/9/27(金) 16:00配信



自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【前編】



日本財団「海と日本プロジェクト」


滋賀県初の江戸落語家として活躍しているのが、三遊亭わん丈さん。年間1,000席もの高座をつとめる若手落語家として大人気となっています。

そんなわん丈さんは、全国各地の学校や保育園などに呼ばれて、子どもを相手に落

No.	6	エリア	全国	配信日	2019.9.27
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190927-00000160-socialinv-env		

寄付は応援になる。東北の被災地のために、いまできること

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

自ら“海ごみ問題”を落語で語る！新進気鋭の若手落語家・三遊亭わん丈の“海落語”への想い【後編】

2019/9/27(金) 16:00配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

若手落語家・三遊亭わん丈さんが披露している演目のひとつが、『拝啓 浦島太郎さん』。これは、プラスチックごみなどの海洋ごみによる海の汚染をテーマにした、わん丈さんの創作落語です。

No.	7	エリア	静岡県	配信日	2019.9.27
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190927-00000131-socialinv-env		

東日本大震災からの復興に取り組む人を、応援する中で見えたこと

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

重さ65kgもの万灯を振るう静岡県川奈の伝統あるお祭り

2019/9/27(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin静岡県」

およそ300年前から静岡県の川奈3町内で行われているのが、「川奈の万灯祭り」。正式には、川奈三島神社例大祭という。

そんなこのお祭りは、万灯と呼ばれるものを屈強な男達が振るう姿が見どころ。三島神社の宮司・高橋克和さんによると、「古くは海上の安全、大漁満足を祈願する

No.	8	エリア	静岡県	配信日	2019.10.4
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191004-00000132-socialinv-env		

買って応援、イチゴ、桃、お酒などが入った東北の絶品スイーツ

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

深刻な海のゴミ問題を表すミズウオの胃

2019/10/4(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin静岡県」

深海1kmほどのところに生息しているという深海魚・ミズウオ。

そんなミズウオは、50年ほど前から静岡県三保海岸に打ち上げられることがある。打ち上げられたミズウオを調査のために解剖してみると、胃の中には、なんとプラスチックなど様々なゴミが出てくるという。東海大学の名誉教授・久保田正さんに

No.	9	エリア	福井県	配信日	2019.10.11
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191011-00000133-socialinv-env		

白身のトロ!? 漁師が人の意見を受け入れ生まれたブランド魚

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

福井県小浜市に春を告げる魚・イサザを取り戻すために奮闘する高校生

2019/10/11(金) 18:00配信




日本財団「海と日本プロジェクトinふくい」

福井県小浜市に春を告げる魚・イサザ。イサザはシロウオとも呼ばれ、春になると繁殖のため河川を遡上するハゼ科の魚。小浜市では、踊り食いが名物となっている。

No.	10	エリア	京都府	配信日	2019.10.18
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191018-00000134-socialinv-env		

NHK フジテレビ ヤフー共同企画 犠牲者ゼロの情報配信とは

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

自分達で遊び・学んで地元の海を次の世代へと繋ぐ「阿蘇海の日」

2019/10/18(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin京都」

京都府の与謝野町と宮津市にまたがる阿蘇海。ここは、日本三景のひとつ「天橋立」によって宮津湾から仕切られた内海。

そんな美しい阿蘇海を次の世代に継承していくため、与謝野町と宮津市では、2016

No.	11	エリア	全国	配信日	2019.10.19
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191019-00000161-socialinv-l13		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



今すぐ手に入れよう

最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

スマートフォンでブリがさばける！？食から海を学ぶイベント

2019/10/19(土) 23:00配信



これは AR(拡張現実)を使った“さばける体験”

日本財団「海と日本プロジェクト」

「さばけるマルシェ」が、東京都・新宿のタカシマヤタイムズスクエアで行われています。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として行っている「さばける塾」のイベントとして実施。食育マルシェ実行委員会が主催する「食」と「食育」をテーマにした「食育プチマルシェ&食育ミニ映画祭（以下、食育マルシェ）」に5つのブースを設けて開催しています。食育マルシェ実行委員会

No.	12	エリア	全国	配信日	2019.10.23
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191023-00000162-socialinv-l45		

三陸産の海鮮、伊達の桃、会津木綿など東北の逸品を買って応援

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【前編】

2019/10/23(水) 20:30配信



宮崎県の青島海水浴場に導入されたのが「海辺のみまもりシステム」


日本財団「海と日本プロジェクト」

「海辺のみまもりシステム」が、2019年7月6日から宮崎県の青島海水浴場に導入された。これは、離岸流や風による海の事故を防止するために、AIとIoTを活用した世界初のシステム。このシステムの共同開発に関わったのが、公益財団法人日本ライフセービング協会の常務理事／溺水防止救助救命本部長で海岸工学の専門家で

No.	13	エリア	全国	配信日	2019.10.23
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191023-00000163-socialinv-l45		

東日本大震災からの復興に取り組む人を、応援する中で見えたこと

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

国際会議で称賛！海の事故を予防するAIを使った世界初の“みまもりシステム”【後編】

2019/10/23(水) 20:30配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

海水浴場での溺水事故において、自然的な要因で最も多いのが、沖に向かう流れの「離岸流」。しかし、離岸流は一般の人だと気づくのが難しいという。公益財団法人日本ライフセービング協会の常務理事／溺水防止救助救命本部長で海岸工学の専門家でもある石川仁憲さんは、「波が大きければ、『今日はちょっと怖いな』とい

No.	14	エリア	京都府	配信日	2019.10.25
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191025-00000135-socialinv-env		

寄付は応援になる。東北の被災地のために、いまできること

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

「海の祇園祭」と呼ばれ、300年以上も続く京都の伊根祭

2019/10/25(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin京都」

京都の名物といえば、祇園祭。


しかし、京都にはもうひとつ「海の祇園祭」と呼ばれているお祭りがある。それが、伊根町で行われる「伊根祭」。

伊根町は、もともと海が身近にある町。

No.	15	エリア	香川県	配信日	2019.11.1
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191101-00000136-socialinv-env		

寄付は応援になる。東北の被災地のために、いまできること

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

チョイサー！の掛け声と共に神様を迎える香川県・住吉神社の夏祭り

2019/11/1(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinかがわ」

香川県にある周囲45mほどの小さな島、小豆島。この島で年に一度、夏に行われるのが、住吉神社の夏祭り。このお祭りは、島に鎮座されている海の神様・住吉大神をお参りするもの。王子神社事務局長の山本良熙さんは、「住吉神社の本社は大阪にある住吉大社。そこから神仏の分身・分霊を他の地に移して祀る勧請をして、島

No.	16	エリア	香川県	配信日	2019.11.8
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191108-00000137-socialinv-env		

寄付は応援になる。東北の被災地のために、いまできること

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

うどん県民の宝・イリコを守る資源管理の取り組み

2019/11/8(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinかがわ」

香川県といえば、讃岐うどん。

そんな讃岐うどんの出汁として愛されているのが、イリコ。イリコは瀬戸内で獲れるカタクチイワシの煮干しのこと。特に、香川県西部の燧灘に浮かぶ伊吹島は、イリコで日本有数の産地。年間およそ2,700トン、なんと全国第3位の生産量を誇る。そんなイリコは、良質で美味しい出汁がとれる。その秘密は、漁獲から加工ま

No.	17	エリア	全国	配信日	2019.11.13
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191113-00000164-socialinv-l13		

白身のトロ!? 漁師が人の意見を受け入れ生まれたブランド魚

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力

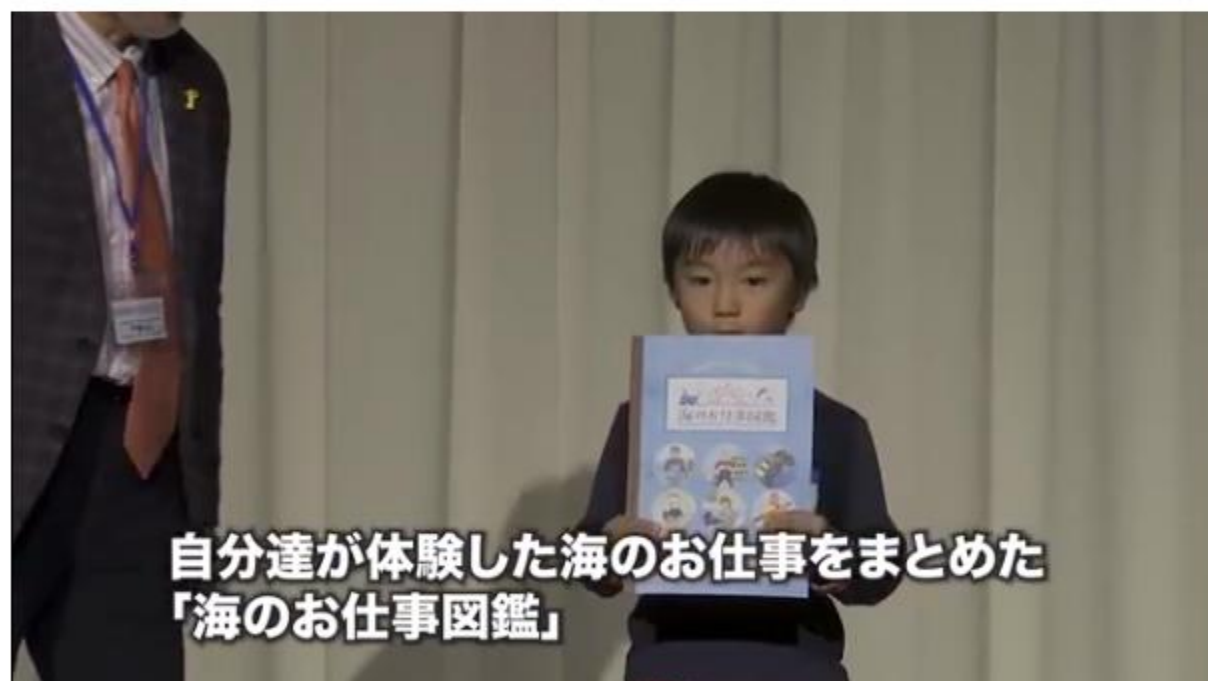


トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

子ども目覚める海の仕事体験～約100人の子どもが体験した“海のお仕事”の集大成！海のお仕事図鑑～

2019/11/13(水) 20:00配信




日本財団「海と日本プロジェクト」

東京都港区で、海のお仕事図鑑プロジェクト実行委員会によるイベント「海のお仕事 こども会議」が11月10日に行われました。これは、2019年の夏、海のお仕事体験イベントに参加した親子が集まったもので、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とが繋がる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環として実施

No.	18	エリア	秋田県	配信日	2019.11.15
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191115-00000138-socialinv-env		

東日本大震災からの復興に取り組む人を、応援する中で見えたこと

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

ユネスコ無形文化遺産にも登録されている秋田県の港町・土崎のお祭り

2019/11/15(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin秋田県」

秋田県の土崎港地区で、毎年7月20日と21日に渡って行われるのが、土崎神明社祭の曳山行事。「土崎港曳山まつり」とも呼ばれているこのお祭りは、国の重要無形民俗文化財であり、なんとユネスコの無形文化遺産にも登録されている。山・鉦・屋台行事を通じた地域の結びつきと、伝統的な工芸技術を継承してきたことが世界

No.	19	エリア	秋田県	配信日	2019.11.22
カテゴリー	ライフ	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191122-00000139-socialinv-env		

3.11企画 いま、わたしができること。

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

秋田県の海にまつわる人達が憂う海洋汚染

2019/11/22(金) 18:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin秋田県」

秋田県では、海にまつわる様々な人が、海洋汚染を感じている。八峰町で漁師をしている山本太志さんは、「死んだ魚が入ることもあるんですよ。高級魚の凄くイイ魚が死んだ状態ですごいニオイで。要するに魚も海水温の変化についていけない」と話す。また、NPO法人白神ネイチャー協会の辻正英さんは、「藻場・海藻が全然なくなっている。岩が裸の岩」と嘆く。そして、男鹿遊覧透視船の代表取締

No.	20	エリア	全国	配信日	2019.11.28
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191128-00000166-socialinv-l13		

NHK フジテレビ ヤフー共同企画 犠牲者ゼロの情報配信とは

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

ジブリで学んだ糸曾監督の流儀～初の劇場アニメ公開！糸曾賢志監督が“恩師・宮崎駿監督の教え”と“自然観”を語る～

2019/11/28(木) 18:00配信



スタジオジブリ・宮崎駿監督に
師事した糸曾賢志(いとそけんじ)さん

日本財団「海と日本プロジェクト」

糸曾賢志監督による初劇場アニメ「サンタ・カンパニー ～クリスマスの秘密～（以下、サンタ・カンパニー）」と「コルポッコロ」が、2019年11月29日から同時上映されます。

No.	21	エリア	全国	配信日	2019.12.1
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191201-00000167-socialinv-l14		

3.11企画 いま、わたしができること。

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

シーパラの水槽に疑似ダイブ～横浜・八景島シーパラダイスに期間限定の「水中ドローン×VR」の新アトラクションが登場！～

2019/12/1(日) 12:00配信

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

横浜・八景島シーパラダイスにある700種類、12万点の生きものたちが生活する日本最大級の水族館「AQUA MUSEUM」。この水族館に「Virtual Ocean Project」という新アトラクションが期間限定で登場しました。これはVRと水中ドローンによ

No.	22	エリア	徳島県	配信日	2020.1.20
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200120-00000168-socialinv-l36		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

海辺の生態系を壊す黄色い脅威～徳島県小松海岸に根付いた厄介者“ナルトサワギク”～

1/20(月) 12:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinとくしま」

徳島県の小松海岸に咲いているのは、ナルトサワギク。1年中、黄色い小さな可愛らしい花をつけるが、実は厄介者で特定外来生物に指定されている。

徳島大学大学院 生態系管理工学研究室内の鎌田磨人教授は「ナルトサワギクは鳴門で

No.	23	エリア	石川県	配信日	2020.1.26
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200126-00000169-socialinv-l17		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

麦ストローが広げる脱プラの輪～1人の女性の海への思いから石川県小松市で生まれた大麦ストロー～

1/26(日) 12:00配信



実は 大麦のストローなのです


日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」

最近、世界中で問題となっている海洋プラスチックごみ。街にポイ捨てされたペットボトルやレジ袋、プラスチックのストローなどは、川から海へ流れていきます。世界の海に流出するプラスチックごみは、なんと毎年800万トンにも及ぶと言います。そんな中、石川県から脱プラスチックの動きが広がっています。

No.	24	エリア	大分県	配信日	2020.1.26
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200126-00000173-socialinv-l44		

NHK フジテレビ ヤフー共同企画 犠牲者ゼロの情報配信とは

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

ジョーヤラ担う大分の中学生～古き良き海の祭りを継承し続ける大分県佐伯市の子ども達～

1/26(日) 12:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin大分県」

大分県佐伯市で毎年9月に行われる祭りが「五丁の市」。

1200年以上の歴史を持つこの祭りの目玉は、ジョーヤラ船の巡航で、主役は、船の上で威勢のいい踊りを披露する地元の中学生たちです。

No.	25	エリア	岩手県	配信日	2020.2.4
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200204-00000170-socialinv-l03		

白身のトロ!? 漁師が人の意見を受け入れ生まれたブランド魚

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

海の保育園で育つホシガレイ～岩手県で減少する幻の高級魚を子ども達が放流～

2/4(火) 12:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトin岩手」


岩手県で幻の高級魚とも言われる希少な魚「ホシガレイ」の生息数が、今、減っているという。その理由が、アマモ場の減少。

アマモ場はアマモと呼ばれる海草が茂っている浅い海のこと、小さな魚にとって

No.	26	エリア	京都府	配信日	2020.2.9
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200209-00000171-socialinv-l26		

東日本大震災からの復興に取り組む人を、応援する中で見えたこと

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

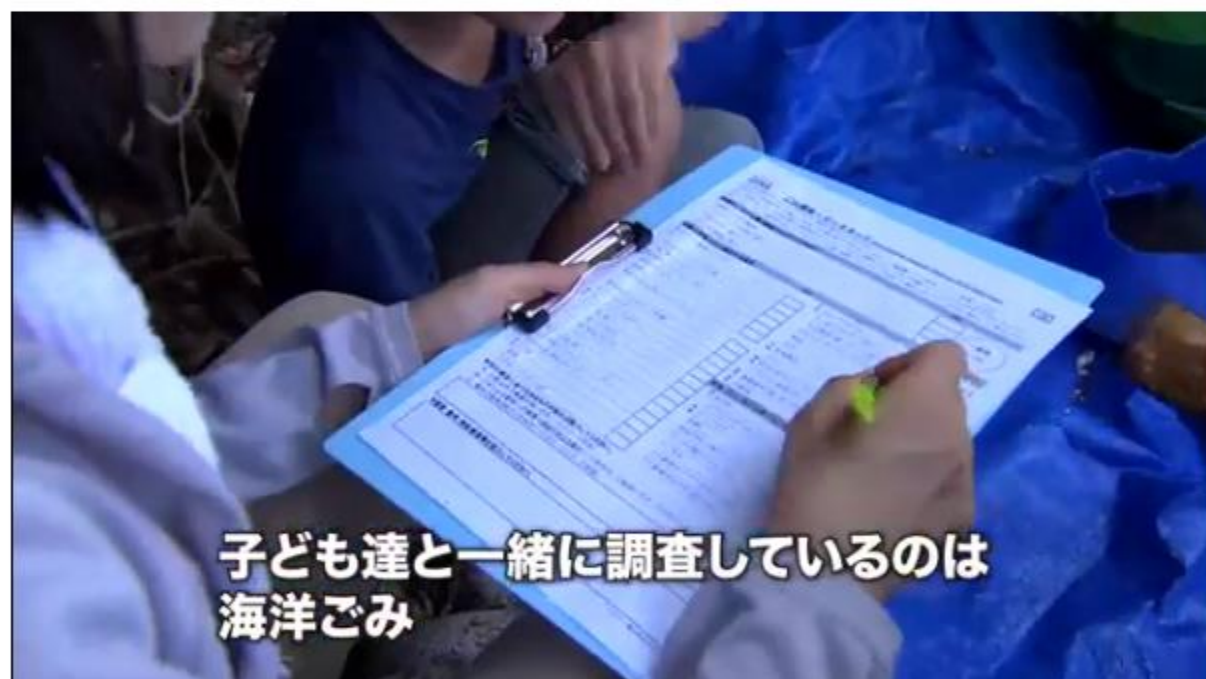
科学

ライフ

地

こども探偵団が海ごみを調査～京都で子ども達が海洋ごみを調査！80袋のほとんどが生活ごみ～

2/9(日) 12:00配信



子ども達と一緒に調査しているのは
海洋ごみ


日本財団「海と日本プロジェクトin京都」

海洋ごみは世界規模で大きな問題となっています。海洋ごみは海岸に打ち上げられて景観を損なったり、海の生き物を傷つけるなど、様々な問題を引き起こしているのです。

No.	27	エリア	山梨県	配信日	2020.2.16
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200216-00000172-socialinv-l19		

寄付は応援になる。東北の被災地のために、いまできること

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力

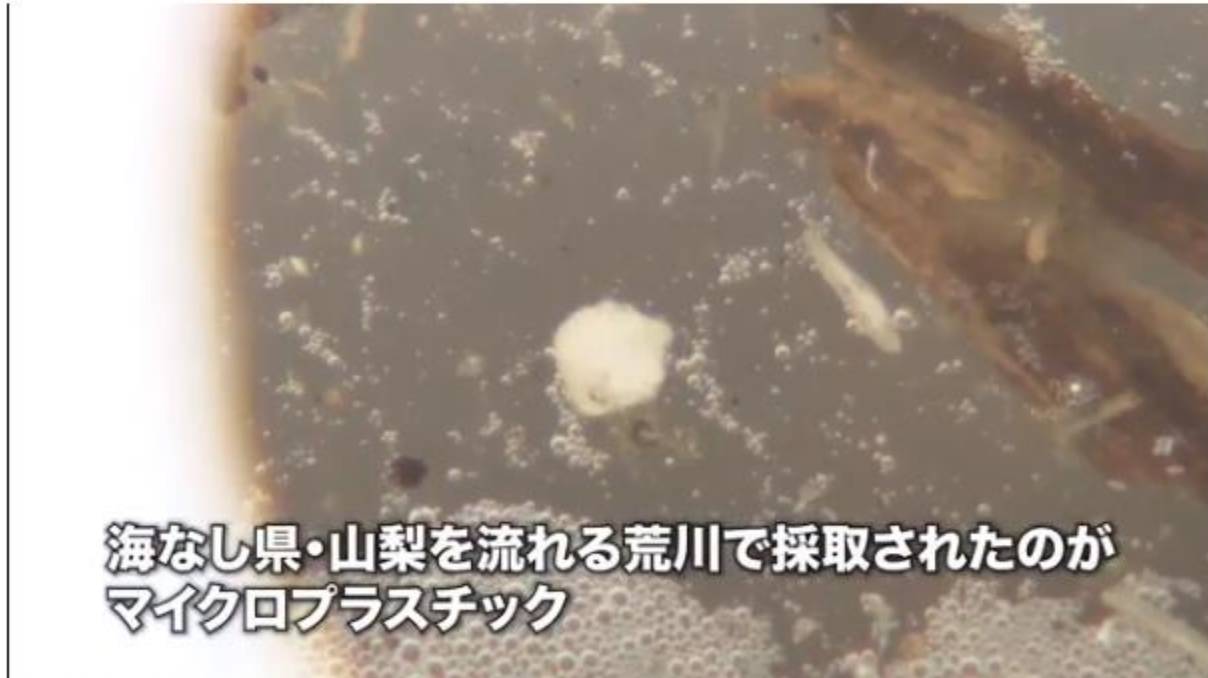


トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

マイクロプラ汚染 山中でも進行～海なし県・山梨発 大学教授が取り組む海洋汚染への取り組み～

2/16(日) 12:00配信



海なし県・山梨を流れる荒川で採取されたのが
マイクロプラスチック

日本財団「海と日本プロジェクトinやまなし」

帝京科学大学自然環境学科の仲山英之教授と研究室の学生たちが、山梨県を流れる荒川を調査。すると、マイクロプラスチックが採取された。仲山教授は「ある程度、想像はしていましたが、やはりマイクロプラスチックが出てきたんだなと思いました」と話す。

No.	28	エリア	全国	配信日	2020.2.16
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200216-00000175-socialinv-l14		

白身のトロ!? 漁師が人の意見を受け入れ生まれたブランド魚

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

院内学級で遠隔“海体験”～横浜南養護学校の子ども達が「水中ドローン×VR」の技術に大興奮！～

2/16(日) 13:00配信



横浜・八景島シーパラダイスにある
水族館の水槽探索です

日本財団「海と日本プロジェクト」

神奈川県立横浜南養護学校の生徒たちが、2019年12月4日に「水中ドローン×VR」技術を使った体験活動を行いました。その活動とは、横浜・八景島シーパラダイスにある700種類、12万点の生きものたちが生活する日本最大級の水族館「AQUA MUSEUM」の水槽探索です。これは、この水族館で2019年11月29日（金）から12

No.	29	エリア	全国	配信日	2020.2.22
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200222-00000176-socialinv-l13		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地

ポイ捨て 別の要因が判明～“モラルの問題”だけではなかった 陸から川へのごみ流れ出るメカニズム～

2/22(土) 6:30配信




日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団と日本コカ・コーラ株式会社が、「陸域から河川への廃棄物流出メカニズムの共同調査」に関する報告会を2月21日に開催した。これは、ごみの総量把握の調査ではなく、陸から川へと流れ出るごみのメカニズムについて調査・分析した結果を発表したもの。

No.	30	エリア	福島県	配信日	2020.2.24
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200224-00000174-socialinv-l07		

ポッチャ1000人体験を目指す。女子部JAPANが大会参戦

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

大震災で被災の漁港が全面復旧～福島県富岡漁港・釣り船業男性の新たな出発～

2/24(月) 9:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinふくしま」

東日本大震災から8年余りが経った2019年7月26日、福島県の富岡漁港が復旧工事を終えて再開し、帰港式が行われました。この帰港式は、福島県にとって記念すべきもので、これで福島県内の漁港全てが利用可能になったのです。

No.	31	エリア	全国	配信日	2020.3.2
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200302-00000177-socialinv-l13		

東日本大震災からの復興に取り組む人を、応援する中で見えたこと

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  今すぐ手に入れよう 最大50%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

灯台が進むべき未来を提案 灯台が進むべき未来を提案～地域の観光資源からマンガ・アニメ化まで「全国灯台文化価値創造フォーラム」～

3/2(月) 11:00配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

実は今、灯台が危機的な状況にあるという。灯台を訪れる人は、1973年は約178万人だったが、2018年は70万人ほどと半分以下にまで減少。また、灯台の基数も、2003年のピークを境に減り続けている。海上保安庁の次長・上原淳さんは「航行の

No.	32	エリア	石川県	配信日	2020.3.8
カテゴリー	地域	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200308-00000178-socialinv-l17		

3.11企画 いま、わたしができること。

Yahoo! JAPAN

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン PayPayモール、最大20%相当戻ってくる

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地

海を守る心を育てる里海科～アクティブラーニングで海洋教育を行う石川県の小木小学校～

3/8(日) 12:00配信



日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」

石川県能登町の小木小学校では、全国で唯一だという海洋教育・里海科が行われています。小木小学校は、2015年から文部科学省の教育課程特例校に指定されていて、里海科は小学校5・6年生において、年間35時間のカリキュラムを編成し、里海の生き物や海洋環境、漁業や水産業など海に関わる様々な学習を実施するというも

No.	33	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190515-00000147-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	34	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190531-00000149-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	35	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190608-00000150-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	36	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190808-10000155-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	37	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190618-00000151-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	38	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190713-00000152-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	39	エリア	不明	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190724-00000153-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	40	エリア	全国	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190805-00000154-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。

No.	41	エリア	全国	配信日	既にYahoo!ニュースからは落ちているため、不明
カテゴリー	不明	URL	https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190820-00000156-socialinv-env		

現在は既にYahoo!ニュースから落ちているため、キャプチャー画像はございません。